

2011年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名:宝島づくり委員会
- 担当副理事長名:谷端利則
- 委員長氏名:石津美智子
- 副委員長氏名:岡部祐一・中田勝也
- 委員氏名:鳥羽瀬宗一郎・武部英広・石井美恵・山下由希弥・山下亜希子・余宮貴之・岡本幸一郎・池田正志
野崎亜季子

I. 事業名【カラーリング de マッチング】

1. 事業目的

(対外)

今後の天草を担う独身男女に出会いの場を提供しカップル成立を目指す。

(対内)

この事業を通して少子化に対する理解と認識を深める。

2. 実施日時・場所

※実施日時

例会企画

2011年 9月15日(木) 20:10~20:50

少子化問題に関する勉強会・まちづくり事業説明会

まちづくり事業(カラーリング de マッチング)

2011年 9月25日(日)

受付 9:30

開始時間 10:30

終了時間 15:30

※実施場所

例会企画

(株)肥後銀行 天草支店 3階

講演会場

プラザホテルアネックス 3階

懇親パーティー会場

プラザホテルアネックス ピア9

3. 参加人員

(カラーリング de マッチング)

(外部)男性参加者 23名(独身メンバー2名含む)

女性参加者 22名

(内部)理事・役員 20名

メンバー 7名

合計 72名

(9月度例会企画)

(内部)理事・役員 25名

メンバー 19名

合計 44名

4. 事業内容

(1) 対外

- ① 少子化を少しでも解消するために独身男女の出会いの場を設ける。
- ② パーソナルカラーを知って頂き、参加者が自分を輝かせ、また相手に好印象を与えるようなスキルを身につける講演会を行う。
- ③ 講演の中で講師との対話や参加者同士の交流を通じて、参加者同士のコミュニケーションを深めてもらう。
- ④ 事業途中及び最後に投票を行い、カップル成立が促進できるように講師或いはスタッフでフォローを行う。
- ⑤ 事業後、参加者及びカップル成立者にアンケートを実施し、事業の検証を行う。
- ⑥ 懇親パーティーの中で天草の魅力を感じてもらうために天草の食材を使用する。
- ⑦ 他LOMからも参加者(女性)を募る。

(2) 対内

- ⑧ 少子化問題の勉強会を行い、日本の人口推移と天草の現状を学ぶ事で少子化に対する理解と認識を深める。
- ⑨ 独身メンバーで希望する者は参加者として事業に参加する。
- ⑩ メンバーが自分の魅力に気づき、それを引き出せる様な内容の講演を行う。

5. 成 果

(対外的)

- ① 今後の天草を担うであろう独身男性、独身女性計45名に出会いの場を提供し、カップル成立に向け、講師の先生およびメンバーで参加者をフォローし、結果として4組のカップルを成立させる事ができ、今後の天草の少子化解消へ少しは貢献できた。

(対内的)

- ① 例会企画に参加していただいたメンバーには少子化の現状を伝え、理解と認識を深める機会とする事ができた。

6. 引 継 事 項

- ① カップリングパーティーのような事業では孤立している参加者がいた際のフォローを早めに行って下さい。また相手とのコミュニケーションが図れるよう、懇親パーティー中、参加者同士を結びつけるゲーム等を行う事もご検討下さい。
- ② 他LOMに事業参加の案内を行った後、各LOMの専務や事務局に事業の参加促進等を再度依頼して下さい。
- ③ 独身メンバーの参加希望をとってみましたが当初は皆無でした。次回、同様の事業を行う際には強制参加も検討されて下さい。
- ④ 一般参加者・メンバーを対象とする講演を行う際にはスタッフを極力少なくし、たくさんのメンバーが講演に参加できるような運営を検討されて下さい。
- ⑤ 事業の進行に追われて青年会議所をアピールする事を失念していましたので、アピールを行う際は事業のタイムテーブルの中に時間を設定して下さい。
- ⑥ 講師と打合せをしていく中で当初計画時とは事業本番の流れが変わってきましたが、講師を呼んでの事業を行う際には計画初段階よりしっかりとイメージを持って細かい打合せを行って下さい。
- ⑦ 参加者アンケートの結果、ホームページからの参加者が2名・チラシからの参加者が2名だけでした。インターネットを活用した周知方法は補助的なものとして考え、チラシ配布に加えて人脈や足を使っての周知に重点を置く事を検討されて下さい。
- ⑧ マスコミを通じての事業の周知は、依頼を行っても掲載・放送の可否は各報道機関の判断によるため、その点を考慮して周知方法をご検討下さい。
- ⑨ 体育祭や祭りなど地元の行事予定を十分に確認した上で事業日を設定して下さい。また、苓北町では商工会青年部の方に呼びかけをした際に、「その日は別の婚活事業に参加する予定なので」と言われました。天草エリア内で行なわれる婚活関係の日程も考慮して事業日を設定して下さい。
- ⑩ メンバー対象に講師を招いて事業を行う際には口頭だけでなく事前にパンフレット等を配布し詳しく説明をすることで、メンバーが興味を持ち参加率が上がることも考えられますので検討されて下さい。

- ⑪参加者対応などを担当するスタッフを配置する際は万が一の欠席を考え、一人に決めず複数で対応して下さい。
- ⑫ホテル等を使用する際は一般客の事も考えて設営を行って下さい。
- ⑬懇親パーティー中のソフトドリンクについては各テーブルにピッチャーを置くなどすれば、注文取りに余裕ができるので、検討して下さい。
- ⑭一般参加者がタイムテーブル通りに動いてくれない場合もあるので、司会も含めてメンバーでのフォローを検討して下さい。
- ⑮パーティー等の事業の際にはホテル等との打合せ及びメンバー役割の事前落とし込みをしっかりと行って下さい。
- ⑯天草webの駅の利用方法を参考資料として添付しましたので、今後の対外事業発信の際はぜひご活用ください。ただし、webの駅への書き込みの権限(方針)をどうするのかは次年度でご検討下さい。
- ⑰パソコンを持っていないメンバーもいますので、委員のパソコンの有無を把握した上で委員会資料等の予算を計上して下さい。
- ⑱一般参加者に記念品等を渡す時には当日手渡しなのか後日送付なのかを計画時に判断して予算を計上して下さい。
- ⑲参加資格について、参加者と主催者が同世代或いは近い年齢の方が同じ視点で考える事ができ、参加者同士がコミュニケーションをとりやすく、カップル成立につながると委員会で判断しました。少子化問題という意味で出産年齢ということも加味して、参加資格を20歳から40歳までとしましたが40歳以上の方の参加希望者もあったため、次回開催時は年齢の上限もご検討下さい。
- ⑳事業の呼びかけを行う際は、市や町など行政単位で婚活を支援する団体が出来ているので、そこに登録している男女への案内もご検討下さい。
- 21.所属年齢からも商工会青年部への呼びかけが非常に効果的でしたので、次回開催時も積極的な呼びかけをして下さい。
- 22.今年度は浄南夜まつりのステージで事業の告知を行いました。テレビ番組の無料イベント紹介コーナーへの出演や各地でのイベント等でのキャラバンを行う事で事業の周知ができるので検討して下さい。
- 23.例会企画で少子化についての説明を行いました。本当に理解して頂けたのか検証を行わなかった。アンケートをとるなど検証方法も検討して下さい。
- 24.今回は事業当日の駐車場は他(天草信用金庫)にも借りる事で台数を十分に確保できました。ホテル等を使つての事業を行われる際には近隣の駐車場を確保する事も検討して下さい。
- 25.事業当日に参加者に持参してもらったプロフィールカードは受付で確実に預かるか、または控室の担当者に渡してもらうなど方法を統一し、効率的な進行を検討して下さい。
- 26.懇親パーティー中のスタッフの人数が多く、威圧感を与えていたとの声もあったので、次回は会場や参加人数等に合わせて検討して下さい。
- 27.今回のカップリングパーティーに関しては、講師の先生にコミュニケーションが深まるように依頼したり、ホテルの会場を貸し切って料理を提供していただいたりしたが、JCのコミュニケーションプログラムを活用したり、異業種の集まりであるJCの特徴を活かして会場のセッティングから調理まで一貫してメンバーが行うようなこともできるので次回検討して下さい。
- 28.今回はプロフィールカード貼り出し用広用紙については前年度の交流委員会が購入した物を使用しましたので、予算が発生しませんでした。備品等を予算化される場合は備品の在庫を確認して予算を計上して下さい。

Ⅱ. 事業名【会員拡大事業】

1. 事業目的

(対外)

勧誘活動を通じて社団法人天草本渡青年会議所の認知度アップを図る。事業・活動に対して理解・賛同していただく事で、共に行動する仲間を増やし、天草地域の社会発展に貢献できる人材を育成する。

(対内)

創立50周年時に会員数100名へ向けて、現会員が一丸となって取り組めるような雰囲気をつくり、勧誘活動に対する意識の向上を図る。また、入会者を増やす事で、当青年会議所の活性化を図る。

2. 実施日時・場所

※実施日時

2月度例会企画「50／100プロジェクト」

2011年2月15日(火) 19:57～20:41

拡大推進会議

第1回 2月 4日(金) 20:30～21:25

第2回 4月 4日(月) 19:30～20:30

第3回 10月26日(水) 20:00～21:10

第4回 11月 7日(月) 20:00～20:50

第5回 11月18日(金) 20:00～20:55

※実施場所

例会・各委員会事業・LOMエリア全域

拡大推進会議 JC会館

3. 参加人員

2月度例会企画

(内部)理事・役員	23名
メンバー	19名
合 計	42名

拡大推進会議

第1回 役員 2名・各委員会 5名・当委員会 6名 合 計 13名

第2回 役員 2名・各委員会 5名・当委員会 3名 合 計 10名

第3回 役員 2名・各委員会 4名・当委員会 4名 合 計 10名

第4回 役員 2名・各委員会 4名・当委員会 1名 合 計 7名

第5回 役員 2名・各委員会 4名・当委員会 3名 合 計 9名

4. 事業内容

(1)対外

①社団法人天草本渡青年会議所の入会案内を用いて勧誘活動を行う。

②社団法人天草本渡青年会議所のホームページに入会案内のバナーを設置する。

③顔写真入りのメンバーのリストを作成し、勧誘時に入会案内と共に活用する。

(2)対内

①新入会員目標を各委員会(4委員会)3名、当委員会4名・執行部・事務局4名の合計20名とする。

②例会次第の裏面で活動状況を報告する。新たな候補者が出た場合等、発信が必要な時は報告事項やスマイルなどで行う。

③会員拡大推進部会を設置し、各委員会との連携を行う。部会構成メンバーは各委員会の委員長・当委員会メンバーとし、必要に応じて会議を実施する。

④前年度より引き継いだ入会候補者リストを会員拡大推進部会の際に活用し、新たな候補者があった場合には随時更新し、情報を共有する。

⑤入会案内を作成し、勧誘活動時に活用する。

⑥当委員会メンバーが各委員会を訪問し、拡大進捗状況の確認・拡大に対する意識の向上を図る。

⑦2月度例会企画において、候補者情報の収集や勧誘の方法に主眼をおいたワークショップを行い、メンバーの拡大に対する意識の向上を図る。

⑧2月度例会に欠席したメンバーには、例会企画の配布資料・報告書を渡す。

⑨事務局に会員拡大状況並びに候補者リストを掲示し、目に触れる形で常に情報を把握してもらう。

⑩紹介者と連携をとって例会や各委員会の事業で入会候補者が参加しやすい事業に絞り、オブザーバー参加を促す。

- ⑪入会候補者の勧誘活動報告書を作成し、やりとりの情報等を逐次、記録する。
- ⑫拡大に貢献した委員会・メンバーには、当委員会より表彰を行う。
- ⑬拡大推進アワーにおいて、毎月1委員会が拡大推進方法を発表し、そのアイデアについて他の委員会に講評してもらう。アイデアを取りまとめて、会員拡大推進部会や各委員会訪問時に情報を落とし込む。
- ⑭賀詞交歓会などのOBとの交流の場において、会員拡大に関しての情報交換を積極的に行う。
- ⑮日本JCのホームページより拡大ツール(拡大リスト・拡大パンフレットなど)をダウンロードし活用する。
- ⑯理事長挨拶等で常に会員拡大の話題にふれていただく。

5. 成果

(対外的)

- ①入会案内作成に際し掲載内容を見直し、当青年会議所の近年の活動を紹介する事が出来た。
- ②入会案内をフォルダ形式にする事により、一人ひとりの入会候補者に合った情報を提供する事ができ、青年会議所の事業内容や思いをより分かりやすく伝えることができた。
- ③5名の共に行動する仲間を増やす事ができ、メンバーのフォローアップの成果もあり、天草地域の社会発展に貢献できる人材育成に寄与できた。

(対内的)

- ①5名の新入会員があり、当青年会議所の活性化に繋げることができた。
- ②2月の例会企画において、既存の候補者リストの洗い直しと併せて改めて情報収集を行い、精査した一覧表を事務局内に掲示した。その結果、候補者情報を共有し委員会の枠を超えてメンバーが協力して勧誘活動にあたる体制作り、並びに会員拡大活動に対する意識・意欲の向上を促す事が出来、新たな入会候補者もリストアップできた。
- ③例会時に拡大アワーを行ったことで、メンバーが拡大意識を高めることができた。

6. 引継事項

- ①しっかりとした広報活動を通じて、まずは当青年会議所の認知度のアップ、事業・活動に対する理解・賛同をより深める事が重要だと感じました。当青年会議所の魅力が上手く伝えられず、入会への機会を逸しているのであればもったいない事であるし、せっかく素晴らしい事業・活動を行っても、それが当青年会議所主催の事業だと気付いてもらえないのはとても残念です。周りに認められ、興味や憧れを持ってもらってこそ、勧誘活動が実を結ぶものだと考えますので、広報手段の検討と併せてアピール力、プレゼン力の向上をさせる手法を検討して下さい。
- ②入会者数目標について、委員会単位でのノルマ形式はあまり機能していなかったため、別の目標設定の方法をご検討下さい。但し、会員拡大推進部会等における出席者や入会候補者情報のやり取り・取りまとめについては委員会単位で行うのが効率的かと思いますが、他のよりよいアイデアやより効率的・効果的な編成についても検討してみて下さい。また、入会者数目標の数値をあくまで目標とみるのか、ノルマという程の強制力を持たせるのかについてもご検討下さい。
例えば「女性会員を増やそう」、「20代の若い会員を増やそう」など数ではない拡大目標の立て方も考えられます。
- ③今年度は候補者リストを貼り出すことにより、メンバーへの意識付けを図りましたが情報を発信し共有化する事は委員会同士、メンバー同士が協力できる体制作りにつながるかと思えます。例会のみならずあらゆる機会を通じて、報告・発信を行って下さい。
- ④会員拡大推進部会の開催について、同様の部会を次年度も開催されるのであれば、開催基準をある程度、明確にしておいた方が部会運営がし易いと思えます。月に1回などの定期的な開催か、不定期開催にしても上記(運営上の問題点)④の項目で例に挙げたような基準をいくつか設けるのか、また集まって情報の提供・共有をするだけでなく、次のアクションに繋がるような部会となるよう、内容をご検討下さい。
- ⑤勧誘活動報告書についても同様で、記入のみに終わらずそれを基にしてそれぞれの候補者に合ったより良い勧誘プランを立てる等、活用させることが大事だと思います。

- ⑥今年度はOBからの情報提供は2名しかありませんでしたが、効果的な手法だと思しますので次年度以降も行ってください。
- ⑦日本JCのホームページに拡大ツールもありますがツールだけではなく、本年度は熊本ブロックで日本JCの講師を招いての講演もありましたので、日本JCの拡大委員会に協力を得てLOMで拡大セミナーを実施するなど日本JCの手法を直接活用することもご検討下さい。
- ⑧会員拡大においては理事長の号令がかなり効果的だと思われます。より強力な理事長発信を促されるようお願いいたします。
- ⑨各委員会の開催時や例会時などメンバーが数多く集まる機会が、メンバーへの直接的な情報の提供・吸い上げが効率的に行える場でもありますので、そういった機会を逃さずに積極的に活用して下さい。
- ⑩例会時に設けた拡大推進アワーについて、各委員会から会員拡大について様々なアイデアをいただきました。それぞれの委員会から発表していただく事により、会員拡大事業は担当委員会だけではなく全委員会、全メンバーが取り組む事業であるという意識付けも出来たと思います。
- 当委員会の所見として、フロアメンバーからは参考資料にあるように率直な意見が多かったため、拡大推進アワーの実施にこだわらず、その意見を吸い上げるような手法をご検討ください。
- ⑪会員拡大推進部会や各委員会訪問時等において、より綿密な情報提供が出来るよう手持ちの情報の分析・整理を行って下さい。
- ⑫例会や事業などへの入会候補者のオブザーバー参加が入会へと繋がる効果的な手法だと考えます。「百聞は一見に如かず、百見は一行に如かず」です。ただその際、例えばJC内輪の話題や用語を極力避けるよう意識する等、オブザーバーも馴染み易いような雰囲気づくりを心掛けないと、参加する事でかえって逆の効果を生み出す恐れもあります。例会はメンバーの為のもの、メンバーの為の時間、という意見もあるでしょうが、オブザーバー参加時にあたってはオブザーバーが場の空気に違和感やギャップを抱かないよう、多少その敷居を下げるような何らかの試みは必要かと思っておりますので、ご検討下さい。
- ⑬印刷物作成の際には、大量に印刷する前に入念な校正を行い、間違いがないか十分な確認を行って下さい。原稿依頼する場合にも、入力後の原稿データもしくはゲラ刷りを依頼先にも見てもらい、間違いがないか確認してもらって下さい。
- ⑭本年度作成した入会案内が約60部残っております。「JCIの構成」、「活躍するJCマン」、「入会のご案内」等を記載し、年度をまたいでも変わらず使用できるよう心掛けて作成したつもりですので、次年度の勧誘活動にお役立て下さい。
- ⑮勧誘活動の際、顔写真入りのメンバーのリストはかなり有効でした。入会候補者とコミュニケーションを取るきっかけになったり、現在どういうメンバーがいるのか視覚的に伝えるのに有効なアイテムでもありますので、本年度の入会者を加えたリストを次年度に向けて作成されることをお勧めします。
- ⑯2月の例会企画において、既存の候補者リストの洗い直しと併せて改めて情報収集を行いました。事業目的達成の検証(対内的)②の項目でも触れているように、候補者情報の共有、新たな入会候補者のリストアップ、メンバーが協力して勧誘活動にあたる体制作り、並びに会員拡大活動に対する意識・意欲の向上を促す事が出来たように思います。年度の早い時期に、例会企画等を通じ全メンバーに対して会員拡大活動に対する意識付けを行って下さい。
- ⑰新入会員を迎えるにあたって感じたことは、推薦人はもちろんの事、他のメンバーもフォローをする事がとても大切です。入会して終わりではなく新入会員がスムーズに溶け込めるように自分から挨拶に行く等、新入会員の不安や緊張感をほぐす行動を必ずとってください。
- ⑱今年度はまちづくり事業の準備・実施等でその間の会員拡大がおろそかになりました。会員拡大担当委員会の職務としてはアカデミー対象事業など関連する事業を兼務するのが良いと考えますので、次年度以降の会員拡大担当委員会の職務についてご検討ください。
- ⑲勧誘活動に関しては基本的には担当委員会が同席する事が良いと思いますが、候補者によっては複数のメンバーでの訪問に抵抗がある場合もあるので、ケースバイケースでの判断の対応をご検討ください。
- ⑳地区予定者フォーラムへ参加したメンバーより、ケーブルテレビ等を活用した拡大周知の手法もあるとの声もいただきましたので、次年度以降の一手法としてご検討ください。

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内容	出席	欠席	出席率
----	-----	---------	----	----	----	-----

1	10月1日	よみや	委員会担当の選定について 年間事業計画について	9名	4名	69%
2	10月6日	JC会館	年間事業計画について	4名	9名	30%
3	10月20日	JC会館	年間事業計画について	4名	9名	30%
4	11月4日	JC会館	年間事業計画について	8名	5名	61%
5	11月17日	JC会館	年間事業計画について	6名	7名	46%
6	11月29日	JC会館	会員拡大について	2名	11名	15%
7	12月10日	JC会館	会員拡大について	3名	10名	23%
8	12月23日	JC会館	会員拡大について	4名	9名	30%
9	1月20日	JC会館	会員拡大について	4名	8名	33%
10	2月8日	JC会館	会員拡大について	6名	6名	50%
11	3月3日	JC会館	会員拡大について	5名	7名	41%
12	3月16日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	3名	9名	25%
13	4月4日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	3名	9名	25%
14	4月16日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	4名	8名	33%
15	4月21日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	5名	7名	41%
16	5月1日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	7名	5名	58%
17	5月18日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	5名	7名	41%
18	5月30日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	5名	7名	41%
19	6月17日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	4名	8名	33%
20	6月29日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	5名	7名	41%
21	7月14日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	3名	9名	25%
22	8月18日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	5名	7名	41%
23	9月1日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	6名	6名	50%
24	9月13日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	5名	7名	41%
25	9月19日	ブラザホテルアネックス	まちづくり事業について	8名	4名	66%
26	9月23日	JC会館	まちづくり事業について	6名	6名	50%
27	10月4日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	6名	6名	50%
28	10月26日	JC会館	まちづくり事業について 会員拡大について	4名	8名	33%
29	11月18日	JC会館	会員拡大について	5名	7名	41%
30	12月2日	JC会館	会員拡大について	3名	9名	25%

委員長所見

明るく楽しい委員会運営をと考えていましたが、実際は委員会運営から事業の組み立て、そして事業の実施等、何事にも不安いっぱいの中、昨年10月より委員会活動を開始しました。委員会メンバーを集める事やまとめていく事の難しさを感じましたが、元気で明るい委員会メンバーから事業についての活発な意見や様々なアイデアをたくさん出してもらい、話し合いを重ねながら事業の組み立て・事業の実施ができました。

会員拡大では拡大に対しての全メンバーへの意識付けを上手く図ることができず、目標には達する事ができなかった事を申し訳なく思っています。勧誘活動を通して青年会議所活動をもっと多くの方に知ってもらう事が拡大に繋がると痛感したり、メンバーが楽しく活動する姿を見せる事も大事だと感じました。今年度、入会した5名はメンバーの温かいフォローのお陰もあり、何事にも積極的に参加し活躍している姿をととても頼もしく思っています。

まちづくり事業では独身男女に出会いの場を提供する事業を行いました。初めての事業で計画段階からどういう手法が良いのかなど、委員会でも多くの意見を出し合い悩みながら、時には楽しみながら参加者の目線に少しでも近づく事を心がけながら事業を作りあげていきました。その結果、4組のカップルができた事や講演会も参加者から好評だった事で長い時間をかけて委員会でも組み立てていく喜びを感じました。

委員会発足時より、いつも不安と悩みがいっぱいで委員長らしい所がなく、何もできなかった私を冷静に優しく支えていただいた谷端副理事長・岡部副委員長・中田副委員長、そしていつも明るく元気いっぱいに楽しい雰囲気盛り上げてくれた個性あふれる委員会メンバーのお陰でここまで辿り着く事ができました。ありがとうございました。また温かく見守り支えていただいた天草本渡青年会議所メンバー・いつも相談にのってもらった平田事務局員さんや事業に関わっていただいた全ての方々にも大変感謝しております。

数年前にある先輩が「委員長して卒業せんば」といわれましたが、委員長を経験させてもらった事で今まで以上の多くの学びや皆さんの温かさを深く感じる事ができました。本当にありがとうございました。

担当副理事長所見

2011年度の理事が決まり、森理事長より石津委員長へ委員長就任の依頼があったとき、受諾してもらうまでに4時間かかったことがつい最近のことに思い出されます。

当委員会では、まちづくりと会員拡大という二つの事業を担当していただきました。飲食業などなかなか時間の都合がつけにくい業種のメンバーが多く、全員揃っての100%委員会は行えませんでした。岡部、中田両副委員長をはじめ、委員会メンバー皆が石津委員長のためにと想いを一つに動いてくれた明るく楽しい委員会でもありました。その結果が「カラーリングdeマッチング」のカップル4組成立へ繋がったものと考えております。

会員拡大に関しては、残念ながら結果は伴いませんでしたが、女性メンバーが多い委員会ということで、女性ならではの視点、動きを取り入れた会員拡大活動、そしてメンバー皆様のフォローがあって、入会した5名のメンバーが生き生きと積極的に活動出来る環境を整えることができたのではないかと考えております。

自分自身、初めて担当副理事長という委員会を監督する立場となり、年当初の副理事長所信では、今まで学び、経験したことをメンバーへ還元し、メンバーを後ろからモリモリと押し上げるとの意気込みで、皆の後ろでどしりと構え、委員会の意見、意向を尊重しながら抜けた穴を補完するようなイメージで委員会に臨みましたが、結果的には手を出し、口を出し、委員会へ深く入り込みすぎ、果たしてメンバーそれぞれの成長に繋がったのだろうか非常に反省をいたしております。

とにもかくにも宝づくり委員会が皆仲良し一丸となって事業をやり遂げたこと、そしてその活動が認められ、2名の新理事を2012年度に輩出することができた事は私自身大変誇らしく思っております。石津委員長、岡部副委員長は残念ながらご卒業されますが、中田副委員長はじめ残る委員会メンバーはこの一年を糧にそれぞれ頑張っていたいただければと期待をしております。一年間大変お疲れ様でした。そして大変お世話になりました。

2011年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名:交流委員会
- 担当副理事長名:山下通輝
- 委員長氏名:河口克也
- 副委員長氏名:田中大地・船田大岳
- 委員氏名:荒木圭一・宮崎志武・後藤円・大塚貴洋・南平礼・穂山豪・赤城志学・益田友和・天野秀俊・村上輝眞

I. 事業名【名寄JCとの交流】

1. 事業目的

(対外)

社団法人天草本渡青年会議所 メンバーの心のこもった言葉や思い、また天草を代表する特産品・産物を贈ることで交流を深める。また、これまで様々な形で交流を深めてきた社団法人名寄青年会議所地域の産業振興の発展に寄与することを目的とする。

(対内)

社団法人名寄青年会議所と社団法人天草本渡青年会議所との交流事業を行う中で、メンバーが名寄の特産物等に触れることで名寄の素晴らしさを感じてもらう。また、メンバー全員が社団法人名寄青年会議所に興味を持ってもらうことを目的とする。

2. 実施日時・場所

(実施日時)

- ・熊本ブロック会員大会(特産品出品) 2011年 7月 9日(土)19:30~22:30
- ・九州地区会員大会(特産品出品) 2011年 9月10日(土)19:00~22:30
- ・例会企画 講演会 2011年10月14日(金)20:10~20:32
- ・例会企画 名寄ビデオレター鑑賞 2011年10月14日(金)20:32~20:52
- ・例会時(ビデオレター撮影) 2011年10月14日(金)20:53~21:10
- ・発送(天草の特産品・ビデオレター) 2011年11月25日(金)
- ・発送(LOM内広報誌) 2011年発行月

(実施場所・会場)

- ・阿蘇プラザホテル(熊本ブロック会員大会大懇親会会場)
- ・大分銀行ドーム(九州地区会員大会大懇親会会場)
- ・株式会社肥後銀行(例会会場)

3. 参加人員

【ブロック大会】	(内部)理事・役員	20名
	メンバー	11名
	合 計	31名
【地区大会】	(内部)理事・役員	11名
	メンバー	8名
	合 計	19名
【10月度例会企画】	(内部)理事・役員	28名
	メンバー	44名
	その他	1名
	合 計	73名

4. 事業内容

- (1) 特産品を贈り、名寄JCメンバーひとり一人に天草の風土を感じて頂くことで、友好JCである我々を都度思い起こしていただく。
- (2) 名寄の特産品を生かしたブースを、熊本ブロック会員大会・九州地区会員大会に出展する。
- (3) 名寄パンフレットを各大会時配布する。
- (4) LOM内広報誌を送り、私たちの近況を知っていただく。
- (5) 例会時の例会企画で2009年「名寄・天草心の交流事業締結書」を結ばれた、当時理事長の門口徹君に「名寄・天草心の交流事業締結書を結ぶに至るまで」の内容で講演をして頂く。
- (6) 例会企画で、社団法人名寄青年会議所から贈られるビデオレターを鑑賞する。
- (7) 例会企画で、特産品を前にして理事長に挨拶、全メンバーで掛け声(贈る言葉)等のビデオレターを作成しお贈りする。

5. 成果

(対外的)

熊本ブロック会員大会・九州地区会員大会の場に名寄特産品のブース出展を行った事、また大会会場にて名寄パンフレットの配布を行い熊本ブロック会員や九州地区会員また、懇親会一般参加者にアピールすることができ、産業振興発展の為の寄与に繋げる事ができた。また、理事長等の贈る言葉やメンバー全員が関わったビデオレターとともに天草の特産品を贈ったことで、交流を図ることができた。

(対内的)

例会企画時、2009年「名寄・天草心の交流事業締結書」を結ばれた、当時理事長のによる講演また、ビデオレターの鑑賞をおこなう事で参加メンバー一人ひとりが社団法人名寄青年会議所との交流の原点に触れることができたとともに友好JCとしての意識付けができた。

6. 引継事項

- ① 各種大会等で調理し、出展する場合場所により出来ない場合がありますので、事前の調査を行うか、前日までに済ませておくか、また、手間のかからない食材を選定された方が良いでしょうと思います。
- ② 名寄市のパンフレット等、送って頂く場合は印刷物でもあり、枚数にも限りがあるとございますので前もって連絡しておいてください。年頭に大量に送って頂き、事務局に設置することで来客に案内ができ、メンバーへ配布等おこなうとで周知・意識付けにもなるとおもいますので、ご検討ください。
- ③ 例会企画等で名寄の事について企画されるのもアカデミーメンバーはもとより全メンバーに周知してもらうことが出来るのでご検討ください。また、講師依頼する場合は前もって打合せを充分行い、迷惑のかからない様にしてください。
- ④ ビデオレター等を上映する場合は事前にパソコン等との相性を確認しスムーズな上映を行ってください。
- ⑤ 例会企画でビデオ撮影等行う場合は、事前にメンバーとの打合せを充分に行いスムーズな進行を行ってください。
- ⑥ 特産品等をお送りする場合は、ビデオレターや寄せ書き等を一緒に同梱するとより心のこもった物となると思いますのでご検討ください。
- ⑦ 例会企画等利用しビデオレター等作成する場合、大勢のメンバーで撮影したほうが良い物となると思いますので総務広報委員会と協力して参加を促してください。
- ⑧ 各大会に名寄の特産品等を出展する際、多くのメンバーに名寄のことを周知できる機会でもありますのでメンバーへファックス以外でもメール、電話連絡また、例会時に告知等参加推進に繋げてください。
- ⑨ 各大会にブース出展する場合は、前もってブース出展料等確認を取り、早めに名寄へ注文されてください。
- ⑩ 天草の特産物を名寄へ、名寄の特産物を天草へ贈りあうことで、お互いの交流を育むことが出来るとともに、名寄の地また、名寄青年会議所を身近に感じる事が出来るのでご検討ください。
- ⑪ 新年賀詞交歓会や花見等、各事業で名寄の特産物の展示、または出展等行うとメンバーに限らずOBの方や地域の方に周知、紹介できると思いますのでご検討ください。

Ⅱ. 事業名【牛深JCとの交流】

1. 事業目的

(対外)

牛深ハイヤの名物とも言える道中総踊りに参加して、盛大な祭りとなる為の一助になることで牛深ハイヤの振興に寄与することを目的とする。

(対内)

祭りを通して(社)天草本渡青年会議所メンバー間、さらには牛深青年会議所メンバーとの交流と親睦を深めることを目的とする。

2. 実施日時・場所

(実施日時)

・前夜祭(懇親会) 2011年4月16日 17:00~18:40

・前夜祭(総踊り) 2011年4月16日 19:00~21:00

・牛深ハイヤ(総踊り) 2011年4月17日 13:00~15:00

・牛深ハイヤ(懇親会) 2011年4月17日 16:00~18:00

(実施場所・会場)

・総踊り ハイヤ大橋を中心とした牛深町内

・懇親会 ビジネスホテル クボタ

・合同練習 第1回:天草宝島国際交流会館ポルト 第2回:天草宝島国際交流会館ポルト

3. 参加人員

【前夜祭】	(外部)家族	4名
	(内部)理事・役員	5名
	メンバー	2名
	合計	11名
【ハイヤ当日】	(外部)家族	16名
	(内部)理事・役員	16名
	メンバー	5名
	合計	37名

4. 事業内容

(1)数多くのメンバーで参加できるように、牛深ハイヤの周知徹底と参加とりまとめを早い段階から行う。

(2)合同練習の場と祭り当日が、より深いメンバー間の交流が出来るよう、牛深青年会議所と連絡調整し交流委員会でサポートする。

(3)自家用車参加による現場での飲酒や車両管理の個人負担を気にせずに、交流と親睦を深めることができるよう移動手段としてバスをチャーターし乗り合わせて移動する。

5. 成果

(対外的)

青年会議所チームとして多数のメンバーで参加し道中総踊りの一部として祭り全体を構成できたことは、牛深ハイヤ祭りに十分寄与したと思う。

(対内的)

バス内では、いつもと違った環境下でメンバー間の会話も弾み、また合同練習や昼食会・懇親会では牛深青年会議所の多数のメンバーと交流し親睦を深めることができた。

6. 引継事項

- ①祭りや練習の参加促進を図るため、例会や理事会に限らず委員会訪問等でPRしたり、日常的な発信を心掛けることで効果が得られると思います。
- ②乗車人数の確定は、キャンセルや追加で確定するのは難しいが出来るだけ早い案内や取りまとめを心掛ける。
- ③保険料についても上記同様に人数の確定は難しいが、参加見込み数での予算計上をするなどの工夫で誤差は少なくなると思います。また、人数が確定してから保険を掛ける場合でも保険会社によって適用が違いますが、急な参加者のために余裕数みておく必要があると思います。
- ④初参加者は、準備物の購入や当日までの段取りなどを事前に打ち合わせしておく必要があります。初参加者への気配りを忘れずに行ってください。(短パンや雪駄・地下足袋などの衣装を事前に購入しようとしたが不慣れなため準備が間に合わなかった初参加者がいた)
- ⑤合同練習の日程は、牛深青年会議所と密に打ち合わせを行い早い段階で日取りを決定しなければ、今回のような審議後の急な案内になると参加促進につながらない。
- ⑥飲酒や疲労、体調不良などにより踊り続けることが道中総踊りの一員として不適切と判断し休憩させることを総括する担当者を決めておく必要がある。

I. 事業名【地域交流事業等の実施 熱血！天草ビーチドッジボール大会】

1. 事業目的

(対外)

今後の天草を担う各団体の若者達と交流を通して、協力体制のためのネットワークを構築することを目的とする。

(対内)

各団体の若者達と交流を通して、お互いの活動理念や事業の内容などの情報交換をしていただき、今後の天草の発展に必要であるネットワークを活用した事業の方向性を見出してもらいたい。

2. 実施日時・場所

(実施日時)

- ・事前準備 2011年 7月 2日(土) 13:00~17:00
- ・当日 2011年 7月 3日(日) 7:00~18:00

(場所・会場)

- 【事前準備・清掃】 本渡海水浴場(茂木根)
- 【其の壱 ドッジボール大会】 本渡海水浴場(茂木根)
- 【其の弐 意見交換会】 茂木根公民館
- 【其の参 懇親会】 本渡海水浴場(茂木根)
- 【其の四 活用】 JC会館

3. 参加人員

【事前準備・清掃】	(内部)理事・役員	8名
	メンバー	11名
	合計	19名
【大会当日】	(外部)各種団体・一般の方々	226名
	熊本県ドッジボール協会(審判)	6名
	(内部)理事・役員	21名
	メンバー	21名
	合計	268名
【意見交換会】	(外部)各種団体・一般の方々	11名
	(内部)理事・役員	9名
	メンバー	2名
	合計	22名

4. 事業内容

【事業全体の流れ】

(1)各団体・地域の方々を募集し、スポーツ大会だけでなく、本事業全体を通して深い交流を行う。

全体的な流れとして、其の壹ではドッジボール大会。其の貳では意見交換会。其の参では懇親会。其の四では各団体より得た情報をもとに事業案内等を各団体宛にファックス及びメールにて情報発信する。この流れで効率よく効果的な事業を目指す。

【其の壹 ドッジボール大会】

(2)各団体や地域の方々の交流を目的とし、若者が楽しく交流出来るようにスポーツ大会(ドッジボール)を行う。

(3)参加対象者を一般社会人(大学生含む)45歳までにする。

(4)受付時に参加者全員に社団法人天草本渡青年会議所のパンフレット等(理事長挨拶、各委員会事業内容等)を配布する。

(5)大会時のリーグ表にあたっては団体同士の組み合わせとなるようにする。

【其の貳 意見交換会】

(6)ドッジボール閉会后、チームの代表者に意見交換会に参加してもらう。

(7)各種団体の活動、地域の方々の活動等、情報共有を図るために、地域の方々や各団体の多くの方々と交流し、意見等交わし親睦を深める。

(8)意見交換会時に参加団体の連絡先一覧を手渡す。

(9)意見交換会時に各団体より得た情報を整理し資料として残す。

【其の参 懇親会】

(10)意見の集約と個々の交流を促進するために、懇親会(バーベキュー)を開催する。

(11)懇親会中にでも出た意見については委員会メンバーがメモを取り報告書に反映させる。

【其の四 活用】

(12)本事業終了後に参加団体のファックス番号及びメールアドレスをアドレスに登録する。更に当青年会議所の事業案内等を各団体宛にファックス及びメールにて情報発信する。

(13)本年度実施する対外的事業への参加案内の発信を行う。

5. 成果

(対外的)

今後の天草を担う若者達とドッジボール大会、意見交換会、懇親会と事業全体の交流を通して、今後お互い事業等を発信し協力しあえるネットワークができた。また、そのネットワークを活用し天草ハイヤ、まちづくり事業の参加案内やあしなみの配布など行うことができた。

(対内的)

天草の若者達と事業全体の交流を通して、情報交換・意見等を交わし、参加者とメンバーの友情が深まり、今後の事業を次回から他と協力して開催できる方向性・可能性が出来た。

6. 引継事項

【地域交流事業 熱血！天草ビーチドッジボール大会について】

①「天草は一つ」今後の天草を担う若者達との交流・ネットワークづくりを目的に開催しました。この事業、手法は変われど、何回も積み重ねてこそ、結果が出てくると思います。まずは、皆が笑顔で楽しく参加し活動でき、更には今後の天草について語り合い、ネットワークを構築し今後協力し合える仲間となると思います。社団法人天草本渡青年会議所が先駆者となりこの様な個人同士の交流できる場・足がかりとなる場を提供する事業を企画し、また継続しなければならないと思います。

【事前準備・清掃】

①事前の清掃・準備は開催時期によって浜辺にゴミが多くありますので早めに数回の現調を行い、人手も必要となりますので早めの参加呼び掛けを行ってください。

②事前の準備・清掃は大事です。そして多くのメンバーの協力が無いと大変です。清掃・準備完了後にLOM内ドッジボール大会など企画されたら準備にも多くのメンバーが集まるのではないかと思いますのでご検討ください。

【其の壹 ドッジボール大会】

- ①大会当日途中雨天時になった場合の対策もフローチャートを作る等、充分行ってください。
- ②参加対象者に年齢制限をつけた方が同世代の交流ができますのでご検討ください。
- ③パンフレットを配りアピールも良いが、各委員会アピールタイムを設けても良いと思います。
- ④各団体同じリーグになる様にしたほうが各団体の交流ができると思いますのでご検討ください。
- ⑤スポーツで、怪我人が出る確率も高いですので安全対策は十分行き看護師もスタンバイさせておくと思えます。
- ⑥当日のメンバー役割・動き等明確にして事前から徹底した説明会を行ってください。
- ⑦会場周辺の地区の方々には事前に事業の説明を行ってください。
- ⑧ルールについては、熊本県ドッジボール協会審判とは事前に打合せを行い、事前に配布する。配布し、周知していただくことで当日のスムーズな進行ができると思います。
- ⑨各チームをビブスで分けておりましたが、当日お借り出来ない場合もございますので、参加チームはユニフォームで参加してもらおうと思えます。
- ⑩大会中の飲酒は禁止としていましたが飲酒している方がいました。今後このような事を避けるため、ポスター等に「飲酒された場合失格」等記載したほうが良いと思えます。
- ⑪大会注意事項時に審判への暴言は禁止と大会中審判または、選手のかたに暴言、不貞腐れた態度をする参加者がいて他の参加者や観客に不愉快な思いをさせてしまいました。またこの様な方が参加されるかもしれませんので、事前説明会を行う等、しっかりと対策を行ってください。
- ⑫事前に代表者会議を開催し、趣旨説明、要項ルール、注意事項を説明したほうが、当日のスムーズな進行ができるとともに、いろいろな問題点も少なくなると思えますのでご検討ください。

【其の貳 意見交換会】

- ①趣旨を説明し意見交換会に多くの参加者に参加頂ける様に、各団体の例会や会議等にキャラバンに行かれる等の参加推進方法もご検討ください。
- ②意見交換会は当日の大会終了後と懇親会前に開催しましたが、時間も参加者も少なく慌てた意見交換会となりました。別日に開催された方がもっと多くの参加者も見込め、ゆとりある時間も持てますしより深い内容での意見交換を行えると思えますので別日開催もご検討ください。
- ③意見交換会で意見を貰うことも必要ですが、懇親会時に意見の収集や、メールや郵送にて意見を貰うこともご検討ください。
- ④意見交換会会場は事前に調査し、参加者を募るため参加しやすい場所・環境にしたほうが良いと思えます。
- ⑤意見交換会時に参加者連絡先一覧を手渡すことで、各団体・各チームのイベント等に募集案内ができますので次回も行われたほうが良いと思えます。
- ⑥各団体・参加者から得た情報を整理し、今後の事業に生かせると思えますので、是非行ってください。
- ⑦個人参加者に意見交換会へ参加頂くため、個人参加者は全員参加等ご検討ください。
- ⑧意見交換会時に得た情報をもとに参加チームの発信先を作成していますのでネットワークの大切さを、参加者またはメンバーへの周知を行い各事業の案内等に活用してください。

【其の参 懇親会】

- ①台風接近等、当日開催するか否かでの対応・連絡等でバタバタしますので、懇親会時のバーベキューの肉や弁当等の依頼する業者との打ち合わせは数日前までには確実に行ってください。
- ②懇親会は各チーム固まり打ち上げ的になってしまい交流になりませんので、懇親会会場レイアウト等を事前に作製し、参加チームが散らばり交流出来る様な形が良いと思えます。
- ③炎天下のもと開催の場合日除けが必要となりますのでテントの準備等行ってください。
- ④抽選会を行うと盛り上がりませんが商品は参加費で賄っています。協賛等で商品を集めると商品代が発生しませんので参加費ももっと安くできるとともに、参加者も増えると思えますのでご検討ください。

【其の四 活用】

①参加された連絡先データは収集・登録し、各事業で参加案内を発信出来、更なる交流ができますので今後も行ったほうが良いと思います。

【参加推進方法】

①締切が過ぎてからの申込が相次いだのでポスターに記載する内容も趣向をこらして下さい。各団体に案内する場合、ファックス・個別に案内に行くのではなく、例会・会議等にキャラバンにお伺いするなどご検討ください。

②賞金を出すという事はかなりのインパクトもあり、参加者も増え盛り上がりますが、メンバー会費から出す賞金ではなく、参加費からもしくは協賛を募り賞金を出した方が良いと思います。また協賛頂いた方(会社)の社名を看板に掲示するなど宣伝も行うと良いと思います。

③ホームページ上からダウンロードしてもプリンターが無いのでプリント出来ないという方も沢山おられましたので、ホームページでの受付も考えた方が良いと思います。

④ケーブルテレビ等、締切がありますので、早めの確認、早めの審議をとられた方が良いと思います。

【その他】

①保険については種類・契約等、予算書作成時または、事前に協議し一番適した保険契約をしてください。

②会場周辺の施設、または、電気等使用する場合は必ず確認をとり許可申請を提出してください。

③賞金を出す場合は支払った相手から受領証を作成し、確実にもらってください

I. 事業名【地域交流事業等の実施 天草ハイヤ】

1. 事業目的

(対外)

地域の発展を願う、個人や各団体との交流を図る。さらには、元気溢れる「社団法人天草本渡青年会議所」を多くの方々にアピールする事を目的とする。

(対内)

天草ハイヤ祭りに参加することで個人や各団体との交流を図り親睦を深めるとともに、青年会議所のメンバー、家族同士が交流を育み親睦、絆を深めることを目的とする。

2. 実施日時・場所

(実施日時)

- ・踊りの競演 2011年7月24日(日)
- (競演練習) 2011年6月23日(木) 28日(火)
- 2011年7月1日(金) 7日(木) 13日(日) 15日(金) 20日(水)
- ・山車作成 2011年6月20日(月)～2011年7月27日(水)
- ・事前懇親会 2011年7月30日(土) 16:30～19:00
- ・道中総踊り 2011年7月30日(土) 19:30～22:00
- (牛深合同練習) 2011年7月19日(火) 19:30～21:00
- (道中練習) 2011年7月13日(日) 26日(火) 20:00～21:00
- ・事後懇親会 2011年7月30日(土) 22:00～24:00

(場所・会場)

- ・踊りの競演:天草市民センター大ホール
- (競演練習) 天草宝島国際交流会館ポルト・天草市民センター大ホール
- ・山車作成 :JC会館裏
- ・事前懇親会:天草青果市場

3. 参加人員

【道中総踊り】	(外部)牛深青年会議所	11名
	一般参加者(各団体含む)	21名
	家族(子ども含む)	15名
	(内部)理事・役員	19名
	メンバー	15名
合 計		81名

【踊りの競演】	(外部)家族(子ども)	8名
	(内部)メンバー	12名
	スタッフ(補欠含む)	10名
	合 計	30名
【山車作成】	(外部)家族(子ども含む)	8名
	(内部)理事・役員	11名
	メンバー	5名
	合 計	24名
【事前懇親会】	(外部)牛深青年会議所	11名
	一般参加者(各団体含む)	21名
	家族(子ども含む)	15名
	(内部)理事・役員	19名
	メンバー	7名
	合 計	73名
【事後懇親会】	(外部)牛深青年会議所	10名
	家族	1名
	(内部)メンバー	19名
	合 計	73名

4. 事業内容

(道中総踊り)

- (1)道中総踊りの踊り内容を誰でも簡単に覚えられるような踊り内容にして踊り・掛声を揃える
- (2)道中総踊りの練習は2回行い、最低1回はメンバーの家族や一般参加者にも参加してもら
- (3)天草ハイヤを盛り上げるとともに交流を育み親睦を深めるため各団体に参加してもら
- (4)交流を育み親睦を深めるため道中総踊りの前に事前懇親会を行い道中総踊りの後に懇親会を行う。
- (5)道中総踊りのなかで隊列の工夫を行い、参加者との交流を図れるようにする。

(踊りの競演)

- (6)アカデミーメンバー・踊りの好きなメンバー交流を深めるとともに当青年会議所をアピールするため踊りの競演に参加する。

(山車作成)

- (7)メンバー間の交流を育み親睦を深めてもらうためにメンバー全員で山車を作成する。
- (8)メンバーが気軽に山車作製に参加出来るように事務局で作製する。
- (9)山車作製行程の中で全員参加の2回のうち一日を昼間にすることで夜間業務のメンバーも参加出来るようにする。

5. 成果

(対外的)

【道中総踊り】

- ①練習、本番を通し一般参加者の方々と時間を共有することで、メンバー個々が対外的に交流を図る場とすることができた。
- ②道中総踊りでは、踊りを簡素化し大きな掛け声を出し、まとまった踊りができた。一般参加者から受賞者が出るなど、元気な社団法人天草本渡青年会議所をアピールすることができた。

【踊りの競演】

- ①踊りの競演も含め天草ハイヤを通して元気溢れる社団法人天草本渡青年会議所を多くの方々にアピールできた。

【山車作成】

- ①山車を作成し、披露の際、沿道はもとより他の参加団体の方からも歓声や写真の撮影をされるなど、沿道の方にアピールすることができた。

(対内的)

【道中総踊り】

①天草ハイヤ道中総踊りの一連を通しメンバー同士が協力し合うことで互いの信頼を構築でき、絆を深める事ができた。

②メンバーの家族にも参加いただき交流を図ることができた。

【踊りの競演】

①踊りの競演に参加したことで競演メンバー同士の交流が生まれ絆を深めることができた。

【山車作成】

①参加メンバーは少なかったが、山車作成に参加したメンバー同士の絆が深まった。

②メンバーの家族にも参加してもらいメンバーと家族、また家族同士の交流が図れた。

6. 引 継 事 項

【天草ハイヤへ参加について】

①本年度地域交流事業天草ハイヤに参加するにあたり、各団体や地域の方と交流、メンバー同士、家族との交流を目的に天草ハイヤ道中総踊りへ参加しました。各団体(商工会・五日会等)の参加は、今後難しいのではないのでしょうか。各団体各々で団体登録し参加したいというお話も聞いております。一般の方については、無理やり出してもらって踊りたいという方ばかり参加頂きましたが、練習への参加は全員ではありませんでした。踊りたくても出る場がないという方達にとっては良いのではないのでしょうか。山車作製においては、メンバー同士の交流を目的に計画・実施しましたが、殆どのメンバーが関わり無しでした。踊り競演はアカデミーメンバーを中心としたチームをつくとアカデミーメンバーのためになると思いますので是非参加してもらいたいです。以上、全体的に参加率・交流をみると参加して良い部分もありますが、天草ハイヤに参加する意味はあるのか、何のために参加するのかと考えることもあります。次年度委員長の企画次第で大きく変わるとは思いますが、今後の社団法人天草本渡青年会議所のハイヤへの関わり方、また会として参加するのではなく、同好会等つくり参加するのか様々な参加方法、交流の仕方もありますので、今一度全メンバーにアンケートを取り、参加するか否かをはっきりされてはいかがでしょうか。

【道中総踊り】

①各団体や一般の方々の方々の参加者を募るのであれば、各団体の例会・会議等へのキャラバンが効果的だとも思います。

②毎年メンバーの参加が少ないですので、ハイヤの開催日が確定次第、メンバーへ案内されると予定に入れやすいと思いますので出来るだけ早めの案内を心がけてください。

③牛深青年会議所との牛深の地で合同練習を行うときメンバーが多く参加出来る様、早めの案内を行ってください。また、乗り合わせて行ける様に車の段取りも前もって行ってください。

④一般参加者の練習への呼びかけも徹底した方が良いと思います。参加同意書等にも書いて頂かないといけませんので、募集要項に記載だけでなく、参加者に必ず参加頂ける様に連絡を取った方がスムーズにいくと思います。

⑤踊りを簡素化することによって参加者全員が直ぐ覚え、大きな掛け声もでき、元気の良さをアピールできるので、ご検討ください。

⑥事前懇親会時、参加者が増え料理等足りない場合もありますので、飲食物は多めに準備するか一般の方の当日参加は認めない等、ご検討ください。

⑦各団体・一般のグループの発信先等ありますので参加推進等に利用してください。

⑧参加人数確定前に団体登録しなければなりません。団体登録するさい、団体数の変更は出来るのか、確認しておいてください。

⑨登録料で保険を支払うと、当日登録料が入ってきます。掛け忘れとなったり、立て替えとなりますので、事業実施までのスケジュールに記載し、予算計上されるなどご検討ください。

【踊りの競演】

①本年、踊りの競演を通して感じた事が、アカデミーメンバーへ出場してもらった方が、登竜門とは申しませんが、アカデミーメンバー同士が共に汗を流す喜び、JCの楽しさを共感し今後に繋げることができるのではないかと思いました。その年ごとに変わるとは思いますがご検討ください。

②スタッフ・当日の応援が少なく盛り上がり欠けています。会を代表して出ているのですからそれなりのスタッフとして参加したり応援して当たり前だと思います。競演メンバーだけを集めるのではなく、メンバー全員へメール等で参加協力依頼された方が良いと思います。

③練習時の飲み物等は、競演メンバーに負担のかからないよう、予算計上・各自で持参してもらうなど検討してください。

④練習時は、担当委員会(交流)が先頭に立って動いてください。踊りの内容も早いうちに決め把握してください。また、練習会場によっては音響(スピーカー)が必要などありますので、事前に調査してください。

【山車作成】

①本年、山車作成時に全メンバーと交流は出来ませんでした。山車を作製されるのであればメンバー全員にパーツを任せて各々が作らないと一つの物が出来上がらないという状況を作れば参加者は増えるのではないのでしょうか。また例会時に誰でも参加したくなる様な案内を行ったり、例会企画を利用するなどご検討ください。

②山車の管理について、車体と土台部分のみを残しブルーシートで囲み事務局横に保管しています。山車作成を検討される際、土台は再利用できる状態ですので、予算組みの際にご参考下さい。

③事務局で作製する場合、メンバーは参加しやすい場所ではありますが、荒天時が大変です。

足場を組みブルーシートで覆うなどするか、屋根のあるベストな場所をお借りし作成するのも良いと思います。

【その他】

①全てのメンバーからアンケートを回収するため記名するようにし、未回収メンバーには電話確認等行い100%回収を目指し、確実なアンケート結果をもとに検証してください。

I. 事業名【忘年会の企画・運営】

1. 事業目的

メンバー・家族の1年間の労をねぎらい、絆を深める。

2. 実施日時・場所

(実施日時)

・2011年12月1日(木) 20:00~22:00(一次会)

・2011年12月1日(木) 22:30~24:30(二次会)

(場所・会場)

・プラザホテルアネックス(5F)(一次会)

・フラワーカラー(二次会)

3. 参加人員

(外部)牛深青年会議所	10名
家族	11名
(内部)理事・役員	21名
メンバー	18名
合 計	60名

4. 事業内容

会場設営・準備及び次年度委員会への引き継ぎ。企画を演出し楽しい雰囲気を作る。

5. 成果

半数のメンバーの参加となったが、委員会のスムーズな進行、次年度へ引き継ぎが行えた。また、楽しい雰囲気をつくることができた。

6. 引継事項

①備品等の準備は前もって行い、スムーズな進行をしてください。

②メンバーへの参加推進は例会等を利用し、多くの参加者を募ってください。

③会場は事前に視察し、会場との打合せを充分に行い、席次表など作られた方が一カ所に固まることもないと思いますのでご検討ください。

④牛深JCには早めに案内をし、ゆとりのある参加締切とされたほうが参加に繋がり良いと思います。

⑤余興に関しては長くなる場合がありますので時間を守って頂き、スムーズな進行をしてください。

⑥理事長挨拶や、乾杯挨拶などは、早めにお願ひしておきご迷惑のかからないようにしてください。

I. 事業名【 会員拡大推進 】

1. 事業目的

天草の明るい豊かな社会の実現のために、また会の存続のために会員拡大を行う。創立50周年時には会員数100名を目指す。

2. 参加人員

(内部)理事・役員	2名
メンバー	11名
合計	13名

3. 事業内容

まずは委員会メンバー各々がJC活動の素晴らしさを知り、一丸となって3名以上の会員拡大を目指す。

4. 成果

目標3名に対して、入会者数2名

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内容	出席	欠席	出席率
1	10月20日	居酒屋まつり	委員会幹事・会計幹事・委員役割について 年間事業計画について	10	2	83%
2	10月30日	荒木圭一宅	年間事業計画について	6	6	50%
3	11月20日	JC会館	年間事業計画について	6	6	50%
4	12月1日	JC会館	年間事業計画について 名寄JCとの交流について	5	7	42%
5	12月22日	JC会館	年間事業計画について 名寄JCとの交流について	7	5	58%
6	1月18日	JC会館	名寄JCとの交流について 地域交流事業(D)について	4	9	31%
7	1月25日	JC会館	名寄JCとの交流について 牛深JCとの交流について 地域交流事業(ドッジボール)について	5	8	38%
8	2月10日	JC会館	名寄JCとの交流について 牛深JCとの交流について 地域交流事業(ドッジボール)について	6	7	46%
9	3月3日	JC会館	牛深JCとの交流について 地域交流事業(ドッジボール)について	3	10	23%
10	3月10日	JC会館	牛深ハイヤ準備 地域交流事業(ドッジボール)について	5	8	38%
11	3月31日	JC会館	牛深ハイヤ準備 地域交流事業(ドッジボール)について	6	7	46%
12	4月4日	JC会館	牛深ハイヤ準備 地域交流事業(ドッジボール)について	3	10	23%
13	4月13日	JC会館	牛深ハイヤ準備	4	9	31%
14	4月20日	JC会館	地域交流事業(ドッジボール) 地域交流事業(天草ハイヤ)について	5	8	38%
15	4月28日	JC会館	地域交流事業(ドッジボール) 地域交流事業(天草ハイヤ)について	6	7	46%
16	5月13日	居酒屋まつり	地域交流事業(ドッジボール)について	8	5	62%
17	5月27日	JC会館	牛深JCとの交流について 地域交流事業(ドッジボール)準備 地域交流事業(天草ハイヤ)について	6	7	46%

18	6月10日	JC会館	地域交流事業(ドッジボール)準備 地域交流事業(天草ハイヤ)について	4	9	31%
19	6月17日	JC会館	地域交流事業(ドッジボール)について 地域交流事業(天草ハイヤ)について	7	6	54%
20	6月24日	JC会館	地域交流事業(ドッジボール)準備 地域交流事業(天草ハイヤ)について	6	7	46%
21	6月25日	JC会館	地域交流事業(ドッジ)実行委員会緊急会議	3	10	23%
22	6月26日	JC会館	地域交流事業(ドッジボール)準備	5	8	38%
23	7月13日	JC会館	地域交流事業(天草ハイヤ)準備	5	8	38%
24	7月23日	JC会館	地域交流事業(天草ハイヤ)準備	6	7	46%
25	7月29日	JC会館	地域交流事業(天草ハイヤ)準備	4	9	31%
26	8月10日	JC会館	地域交流事業(ドッジボール)について 地域交流事業(天草ハイヤ)について	5	8	38%
27	9月9日	JC会館	名寄JCとの交流の準備	3	10	23
28	9月27日	JC会館	名寄JCとの交流について 地域交流事業(ドッジボール)について 地域交流事業(天草ハイヤ)について	4	9	31%
29	10月7日	JC会館	名寄JCとの交流について 地域交流事業(ドッジボール)について 地域交流事業(天草ハイヤ)について	4	9	31%
30	10月28日	JC会館	名寄JCとの交流について 地域交流事業(ドッジボール)について 地域交流事業(天草ハイヤ)について	5	8	38%
31	11月1日	JC会館	名寄JCとの交流について 地域交流事業(ドッジボール) 地域交流事業(天草ハイヤ)について	4	9	31%
32	11月17日	JC会館	地域交流事業(ドッジボール)について 地域交流事業(天草ハイヤ)について	4	9	31%
33	11月30日	JC会館	忘年会について	4	9	31%

委員長所見

入会2年目の私に、理事長から「交流委員長ばしてくれな」と一言。断ることもできず、またJCについて何も分からない自分を指名して頂くということは、何かに期待されているのか、この期待に応え、更にはスキルアップが出来るチャンスかもしれないと思い、委員長という大役を仰せつかりました。当初は自分の修練のためにと考えていましたが、委員会を開き事業計画を作成していくうちに、社団法人天草本渡青年会議所の評判を落とさぬよう、また当青年会議所の発展、更にはこの天草の発展ために尽力しなければならないと、いつの間にか思いが変わっていました。

理事長・副理事長の所信に基づき活動方針を決め、2011年度交流委員会は「天草は一つ」を合い言葉に天草の方々を心と心をつなぐ笑いあり感動ありの交流事業を行い、更には、メンバーと各種団体、地域の方々との交流を通して、JC活動をアピールする。そのためには全メンバーが一つの環となるよう交流を育み、メンバー一丸となり今以上に天草にとって必要とされる団体を目指し、委員会の運営では、有意義でスムーズな委員会を目指し、笑いが絶えない雰囲気をつくり委員会メンバーが来やすい環境をつくる。全ての事業を行う上で委員会メンバー各々に自覚と責任を持たせ、事業を創る大変さの中に楽しさ、喜び、感動を感じる委員会運営を目指す。この活動方針・委員会運営方法で一年間の交流委員会がスタートしました。交流と言うだけあって様々な団体や地域の方々や接し交流する場があり、牛深青年会議所、友好JCの名寄青年会議所と交流を育み親睦を深め、更には各種団体また地域の方々、今後の天草を担う若者達とも共に汗を流し、共に笑い合い、意見等を頂くなど、素晴らしい交流を図ることもできました。「天草が一つ」になるための、きっかけができたと思います。事業を行うためには委員会メンバーがなくてはなりません、とにかく委員会に参加してもらえよう、明るく楽しく笑顔がいつぱいの雰囲気を目指していました。委員会メンバーもそれぞれ性格の持ち主で、「委員会には来ないけど本番には参加する」「殆ど不参加だけど連絡は毎回する」「毎回参加」人間本当に十人十色と痛感することもありましたが、委員会を運営して行く中で、毎年殆ど顔を出さないメンバーや、入会して間もないメンバーが意見を述べてくれたり、一緒に汗をながしてくれたり、心配して電話をかけてくれるなど、本当に素晴らしいメンバーに恵まれたと思います。あるメンバーは入会后1ヶ月で牛深ハイヤに参戦、1日で牛深青年会議所に名前を轟かせ、あるメンバーは事業後のネオンの街に轟かせ、あるメンバーの奥さんの方がメンバー？と思うくらい事業に参加して頂けるなど、私がここまで乗り越えてこれたのも、2011交流委員会メンバーのお陰だと思えます。また、次年度の理事に交流委員会から初理事として2名当選することができ嬉しく思います。

ちょうど1年前は、あれもしたい、これもしたい、もっとしたい、もっともつとしたいと、沢山の事業計画をたて、今思うと後悔も多少はありますが、沢山の事業を行ったことで、多少なりともメンバー全員の成長、そして私の大きな成長に繋がったと思えます。1年間、執行部をはじめ、多くのメンバーにご心配、ご迷惑をおかけしたとを深く反省しております。様々な素晴らしい経験をさせて頂いた理事長をはじめ、1年間共に活動してくれた委員会メンバーをはじめ全メンバー本当にありがとうございました。人生の中の大切な1ページとすることができました。

担当副理事長所見

本年は対外交流を重点に計画し活動してきました。その中でも新たな試みとして、地域交流事業と題し開催しましたビーチドッチボール大会では、各団体や地域の青年が200名を超す大きな大会を開催することが出来ました。当日は色々不手際があり、参加して頂いた方々にはご迷惑をお掛けした部分が沢山ありましたが、大きな怪我もなく何とか委員長として思い描く事業が出来たのではないのでしょうか。

今後、この事業で構築した手法及び各団体との繋がりを活用して、お互が協力し合えるような組織運営を築いて頂きたいと思います。交流委員会は毎月何かしら議案と格闘し、初委員長として事業を遂行していくことは大変だったと思いますが、メンバー皆さんの叱咤激励を受け、自分自身大きく成長したのではないかと感じております。JCには多くの仲間と知恵が集まった団体です。自分一人で悩み考えることも必要ではありますが、時には相談し多くの意見を取り入れより高い事業の構築をしていくことが大事だと思います。ことわざにもあるように「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」。分からないことは何でも聞き、本年で学んだ事を十分に生かし、次年度へ飛躍して頂きたいと思います。

2011年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名: 青少年育成委員会
- 担当副理事長名: 松岡大輔
- 委員長氏名: 宮崎琢磨
- 副委員長氏名: 吉本雅弘・上剛司
- 委員氏名: 芥川琢哉・村田勝貴・小浦一馬・津口欣也・赤城清志・渡辺隆文・高山唱太郎・尾崎友彦

I. 事業名【 JCサッカーフェスティバル天草 】

1. 事業目的

(対外)

多くの子ども達に、勝利という共通の目的を持ち、チーム一丸となって協力し戦うことでコミュニケーションやチームメイトに対する思いやりの心を持つことを学んでいただく。そして日々、個々が切磋琢磨しながら練習し、積み重ねてきた成果が反映する場を提供することで子ども達の健全な成長に繋げていく。また、社団法人天草本渡青年会議所の対外PRを図る。

(対内)

子ども達の真剣な姿と向き合うことで、メンバーの青少年育成に対する意識を深めていただく。また、スポーツ大会への共催を通して、青少年育成におけるLOMと地域コミュニティとの相互交流を高めるとともに、全体事業としてのメンバー同士の連携、団結力を高める。

2. 実施日時・場所

2011年2月12日(土) 8:00~15:00 集合 7:30

天草島内 小学校 運動場 10会場

二江小学校・手野小学校・御領小学校・志岐小学校・富岡小学校・佐伊津小学校・本渡南小学校・本渡北小学校・新合小学校・高浜総合グラウンド

3. 参加人員

(外部)小学生73チーム	730名
天草サッカー協会	10名
天草ユナイテッドチルドレン	2名
(内部)理事・役員	21名
メンバー	11名
合 計	774名

4. 事業内容

(1)事業当日までに理事長、副理事長、委員長とで開催予定小学校の校長先生に直に面談し、当日使うボールを手渡して、当青年会議所の青少年育成に対する熱い思いを直接、伝えていただく。また、当日は一会場で開会式を行い、理事長挨拶にて、青少年育成に対する熱い思いを子ども達に直接伝える。

(2)8人制サッカーを行うことで、11人揃わなくて出場できない小さい小学校や、一学校では参加ができない小規模校でも、合同チームにて参加できるようにすることで、小規模校でも参加する機会を与えることができる。また、一校から複数チームの参加を可能とすることで、より多くの子ども達に試合への出場機会を与えることができる。

(3)サッカー協会に未登録のチームは、参加できる大会が少ないので、参加できるようにすることで、より多くの参加者を募ることができる。(現在登録チームは24チーム)

- (4)参加チームが自己申告でランク別に分かれ、同じレベルでの試合が見込まれることで、強いチームも弱いチームをそれぞれ目的にあった参加ができ、力が均衡するチームが切磋琢磨しながら一緒にプレーすることができる。
- (5)12会場それぞれグループでの優勝とすることで、優勝することの経験を多くの子ども達に感じてもらうことができる。
- (6)天草ケーブルテレビに取材依頼をすることで、社団法人天草本渡青年会議所のPRをすることができる。
- (7)試合やリフティングコンテストの結果をあしなみに記事として載せていただき、社団法人天草本渡青年会議所の取り組みをPRする。また、配布先の学校等で、その記事を目にすることで来年度への活力と日々の練習に力を入れていただき、子ども達の健全な成長に繋げる。
- (8)当日使用するボールには、社団法人天草本渡青年会議所のネームを入れていただき、PRにつなげる。

5. 成 果

(対外的)

- ①多くの子ども達に参加していただき、各小学校またはクラブチームごとに、勝利という一つの目的のためにチーム一丸となって協力し合うことができた。
- ②今まで選手として出場する機会が多い子ども達も、出場する機会に恵まれなかった子ども達も、それぞれで個々が切磋琢磨しながら練習してきた成果が反映することができた。
- ③たくさんの子ども達や先生方、保護者の方に参加いただいたことで、社団法人天草本渡青年会議所の対外PRを図ることができた。

(対内的)

- ①リフティングコンテストを行うことで、子ども達の真剣な姿と触れ合うことで、メンバーの青少年育成に対する意識を深めていただくことができた。
- ②サッカー協会と共同して事業を開催することで、社団法人天草本渡青年会議所と地域コミュニティを結びきっかけづくりとなった。

6. 引 継 事 項

- ①ボールのプリントをしなければ、安価にそして早く注文が可能です。開催会場の決定に関してはサッカー協会の事情もありますので、開催会場数が決まったらできるだけ早く動ける体制をとってください。
- ②開会式、閉会式を実施した会場では締りのある運営を行うことができたとの話であったので、全ての会場で行うことも検討して下さい。
- ③一校から複数チームの参加を可能とすることや、小規模校の合同チームの参加を可能とすることで、より多くの子ども達に試合への出場機会を与えることが出来たことは、先生や保護者からも好評だったので、ぜひ次年度以降も続けてください。
- ④天草ユナイテッドチルドレンにも協力依頼をすることで、より活動的な事業を行うことができるので、次年度もご検討下さい。
- ⑤今回メンバーのほとんどが、サッカー協会の先生方と当日初めてお会いしたので、うまく連携がとれないことがありました。事前に合同で打ち合わせ会議をしたほうがよいと思います。
- ⑥各会場リアルタイムで結果がわかるようなシステム(ツイッターなど)を利用すれば、各会場での計測も盛り上がり上がると考えますのでご検討ください。
- ⑦リフティングコンテストの際、名前を記入するのに時間がかかったり、また確認するのに時間がかかりますので、試合当日までに各チームからあらかじめ選手名簿を提出していただくことを検討して下さい。
- ⑧リフティングコンテストの結果をホームページにて掲載する計画となっていましたが、個人情報関係で各小学校、各チームに確認をするためにかなりの手間がかかりました。最終的にサッカー協会より各小学校に一斉メールにて確認していただいたので、事前をお願いしておいた方がよいと思われます。
- ⑨リフティングコンテストについては女子の部を設けて欲しいという声が多くありました。予算に余裕があればご検討ください。
- ⑩救急用品は各チームで用意するようになっていますが、各会場1セットは本部で用意したほうが万が一怪我があった場合も対応できますので、ご検討ください。
- ⑪次年度以降もサッカー協会との共催という立場で継続したほうがよいと考えます。次年度が立ち上がる秋にもJAカップがありますので、次年度担当委員会はそれを現地調査に行つて、先生方とも打ち合わせを行ってください。

Ⅱ. 事業名【一瞬懸命 ～知覧 天草 過去 未来】

1. 事業目的

(対外)

命の大切さを理解し、家族愛を育み、今ある命を大切に作る健全な心、また命が守られる平和な世界の尊さを感じる心を育むことを目的とする。

(対内)

命の大切さを理解し、命を大切にすること子ども達と共に行動しながら伝えていくことでメンバー自身が成長し、その成長が社団法人 天草本渡青年会議所の更なる飛躍へ繋げることを目的とする。

2. 実施日時・場所

天草学習会

2011年8月6日(土) 13:30～16:40

知覧学習会

2011年8月20日(土)6:00 ～ 8月21日(日)20:00

天草島内および鹿児島県南九州市並びに南さつま市

天草学習会: 肥後銀行天草支店3階

知覧学習会: 知覧特攻平和会館及び南薩少年自然の家

3. 参加人員

	天草学習会	知覧学習会
(外部)中学生	30名	29名
天草ユナイテッドチルドレン	1名	3名
看護師	0名	1名
(内部)理事・役員	23名	24名
メンバー	7名	19名
合 計	61名	76名

4. 事業内容

〈天草学習会〉

(1) 予め参加者の性別、学年、出身校を考慮し班分けを行い、各班にて自己紹介やアイスブレイクを行う。(班編成は中学生6～7名に班行動の手助けをするサポーターリーダーの天草ユナイテッドチルドレンメンバー1名の計7～8名で構成し、それにJCメンバーが加わり班の進行等のサポートを行う)

(2) 「今ある命」と題し、まずは今自分が考える命とは何なのかを議論し、その後辞書で命について調べ命とは最も大切なものだという結論を導く。

(3) 今現在ここに自分が存在することの貴重さを伝える為、何代の先祖で何人になるのかを数えてもらい、33代遡ると今の世界人口69億人を超える先祖の数になりその中の一人でも欠けたら自分が存在できず、自分が居なければ子孫もまた存在しないことを感じてもらい生まれたことへの感謝の心を引き出し家族愛を育む。

(4) 「生きる」と題し、班ごとに今まで生きてきて一番うれしかったこと、生まれてきて良かったと感じたこと、一番やりたいことを引き出し、今自分は何のために生きているのかを考えてもらい今までの生き方と今後の生きる展望を確認してもらいます。参加者からの意見の引き出し方法としてKJ法を用いる

(5) 余命が1週間となった場合何をしたいか、余命1日となった場合誰に何を伝えたいかを考え、人は死という期限があるからこそ生きることに意義があり、死はいつ訪れるかわからないからこそ今の一瞬を大切に生きなければならないことを考えてもらう。

(6)実際に数日の命を宣告され家族を守るため特攻していった同年代の遺書を紹介し、その短い文の中に込められた家族への愛情、命を懸けてでも守りたいという心情を感じ興味を持ってもらい、さらに多くの遺書から文に込められた家族愛、命の大切さ、平和の尊さを実感する知覧学習会の導入を行う。

(7)知覧特攻平和会館で限られた時間の中より多くの学びを得るための時代背景等の予習をDVD・事前学習資料を使い行う。

〈知覧学習会〉

《1日目》

(8)往路のバス移動中は天草学習会で行った時代背景等の復習と近現代史の歴史観を持ってもらえるよう移動学習会を行う。また、バス移動中はアイズブレイクとしてスケッチブックを用いて鹿島・知覧に関連するクイズなどを行い、和やかな雰囲気での演出をして参加者同士の親睦を図る。

(9)知覧特攻平和記念会館にて語り部の講和、DVDの映像を見た上で実際の遺書を閲覧し、筆者の家族への愛情、今を生きる素晴らしさ、平和な時代の尊さを体感してもらう。

(10)宿泊所において知覧特攻平和会館で感じたこと学んだことをまとめ、命の大切さを感じ家族愛を育み、そして今を懸命に生きることが命を大切にすることだと感じてもらう。

(11)参加者の保護者から参加者が生まれた時の感情、名前の由来、どう成長して欲しいか等を手紙に書いてもらったものを参加者に渡し、返事を書いてもらいさらに家族への愛情を形にしてもらう。

《2日目》

(12)今ある命を大切に生きるためには1年後にはどうなりたい、5年後にはどうなりたいなどの目的や目標を持って達成の為に今の一瞬を懸命に生きることを伝え、それぞれの自分の目的や目標をいつでも目につくよう木版に電熱ペンで書き込み形にして残してもらう。

(13)宿泊所裏にある吹上浜に移動し、故郷の天草、また前日の特攻隊員たちが向かった戦地へと続く海に向かって自分の目的や目標、決意を叫んでもらい心に刻んでもらう。

(14)メンバー自身が命を大切にすることであることを伝えられるよう学習していき、大人の目線だけでなく、年代の違う中高生の考えや意見も聞き、共感していくことで命の大切さや家族愛、平和の尊さを再認識し自己の成長につなげる。

(15)バス移動や見学、そして寝食をすべて参加者と共にする中、メンバーがOTONANOSENAKA運動を行い、思いやりと節度ある接し方をすることで自身のレベルアップを図る。

(16)知覧学習会より1カ月後の9月下旬に参加者と保護者に対して、この事業を終えての感想や変化、近況状況などを手紙で返信していただいて事業の検証を行う事ができる。

5. 成 果

《天草学習会》

(対外的)

①天草学習会において先祖より受け継がれた今ある命の大切さ、家族愛というものを伝えることができた。

(対内的)

①命を大切にすること子ども達と共に考え伝えていく中でメンバー自身が命の大切さを再認識しメンバーの心の成長に繋がった。

《知覧学習会》

(対外的)

①知覧学習会での家族に宛てた特攻隊員の遺書、そして自分の親からの手紙を通じ、命の大切さと家族愛というものを伝えることができた。

②知覧特攻平和会館で自分たちが経験したことの無い悲惨な戦争というものを目の当たりにし、今の日本における戦争のない世界というものが悲しい歴史と多くの犠牲の上に成り立っていることを理解してもらい、平和の尊さを体感してもらえた。

③目標を持ち、その達成の為に今ある一瞬一瞬を懸命に生きる事の大切さを伝えることができた。

(対内的)

- ①参加した中学生に命の大切さを伝える為、寝食や行動を共にしながら向き合い、中学生の思う命に対する考えを知り、自身の考えと比較することで改めて命の大切さを再認識し、その思いを試行錯誤しながら中学生に伝えることでメンバー個人の資質向上に繋がった。
- ②ガイドJCや講師など外部に頼らず自らがいき、自分の言葉で伝えることで自身の成長に繋がった。

6. 引継事項

《例会企画》

- ①自分で講師をする場合は、パワーポイントや音響の演出が非常に大切です。タイミングを何度も打ち合わせをして下さい。
- ②例会企画においてKJ法ではメンバーに実際に参加者する子ども達の立場で、ワークショップを行いました。リーダー・サブリーダーの落とし込みにもなるので、子ども達にワークショップを行う場合はまずメンバーからの事前の研修を行って下さい。

《天草学習会》

- ①部活動等での急な変更は早急に連絡を頂くよう周知し、それも考慮したうえで参加募集、メンバー構成をされた方が良いでしょう。
- ②事業を行う部屋と保護者説明会を行う部屋は分けた方がスムーズに進行でき、伝えるべきことも伝えやすいと思います。
- ③学習会等、終了後の子どもたちの送迎時間などの関係もあるので、終了時間は出来るだけ設定していた時間に終わらせて下さい。
- ④事前学習会に参加できなかったり、遅刻等で一部分しか参加できない子どもや保護者には、別日に個別対応も検討した方がよいので対応をお願いします。
- ⑤今回はKJ法で意見を出してもらい進行了ましたが、初対面で年齢も違うグループ内において意見を出しやすいように感じました。事前学習会等には特に有効な方法であると思しますので事業内容に合わせてご検討ください。

《メンバー事前説明会》

- ①メンバー事業説明会を複数開催する場合は、メンバーの参加できる時間帯に合わせて、平日夜や午後もしくは休日に開催することも検討して下さい。

《知覧学習会》

- ①急な雨天時でも対応できるよう雨風のしのげる会場、施設等の設定をお願いします。例年市役所を出発・到着に使うことが多いですが、市民センターならば入口付近にて雨風をしのげると思います。
- ②受付の人員配置や必要備品には余裕を持った設定を行い、野外で受付等の作業がある場合は、晴天でも急な雨天時のことも考慮して作業がスムーズに行くように注意してください。
- ③知覧学習会の際、本隊の1時間程前に先行車をスタートさせ、道路状況や天候の把握、フェリー等公共機関の支払に効果があり、スムーズに行えました。長距離移動の際はご検討ください。
- ④車の移動中、道に迷ってしまったメンバーがいたので、現調などの参加を積極的に促して下さい。また、事業当日は各車両に現調参加者を同乗させるよう心掛けてください。
- ⑤バス等での長距離移動ではタイムスケジュールに余裕を持ち十分なトイレ休憩を設ける必要があると思いました。
- ⑥救護車は同時に車酔いや気分が悪くなる子どもがいるので、余裕を持った人数確保をしてください。
- ⑦タイムキーパー、リーダー、サブリーダーなどの担当者へは何度も事業のシミュレーションを行うなど徹底して落とし込みをお願いします。
- ⑧学習会等真剣に勉強する場面では、メンバーも緊張感を持って子どもたちと一緒に勉強をするように心掛け、お互いに気づいたことがあれば指摘して下さい。学習会で眠くならないように、前日はちゃんと睡眠をとるなど体調管理に気をつけ、万全の態勢で参加して下さい。
- ⑨手紙の書き方は知っているはずという思い込みがあり、手紙を書く際の配慮に欠けていたと思います。大人の目線だけで判断せず、細やかな心配りをしていただきたい。
- ⑩事業の場面に合った雰囲気作りも大切だと思います。事業の流れをメンバーで共有し、それぞれの場面に合った演出や雰囲気でも事業の効果を上げていただきたいと思います。
- ⑪今回、解散後の撤収や片づけに戸惑ってしまったので、解散後の段取りまで含んだ組織図タイムスケジュールを作成し、最終的に委員会で確認するようにしてください。

《事業全体》

- ①施設等とは綿密に打ち合わせ、事業当日にタイムスケジュールの変更などの影響がないようにして下さい。また、施設内で使用できる設備・備品の確認や使用できる時間帯や注意事項等を十分協議してください。
- ②バスを借りての移動を行われる場合はバス借用料金、高速道路料金、運転手経費を一括した見積りを取られ、予算計上された方が良いと思います。また往路・復路の交通ルートを実際に決め、忠実に運行した方が予算に変更がなくよいと思います。
- ③予算計上時より安価で同等の物が後から判明しないよう予算組み段階で確認を行ってください。また団体割引料金なども最終確認を行って計上してください。
- ④青年会議所の備品で事業に使用するものは早めに確認を行い、破損や部品の劣化等の有無を確認してください。
- ⑤公共施設などたくさんの方が訪れる場所を利用するにはポロシャツ等青年会議所のメンバーと一目でわかるような工夫をし、メンバーに徹底をお願いします。
- ⑥参加推進の方法として学校訪問を行って直接説明することはより効果的です。訪問前に校長会や教頭会にて事前周知すると尚良いと思います。
- ⑦事業直前まで最終組織図が出来上がらないような状況があったので、メンバーの事業出欠の確認方法を考え直す必要があります。
- ⑧天草ユナイテッドチルドレンに参加要請される場合は携帯電話だけでなく自宅の連絡先も伺っておいた方が良いでしょう。また委員会メンバーで参加者全員と顔合わせをさせていただきます。
- ⑨看護師さんとの打ち合わせを早めに行って健康面の対策を十分協議されてください。
- ⑩参加者に挨拶の徹底を行うためにメンバーが目を配り、その都度注意をおこなって実行させるような方が良い。
- ⑪事業当日の様子をネットなどにアップしたい場合は、アップの方法をより簡易化し、当日アップするメンバーには徹底してアップの方法を落とし込んで下さい。
- ⑫委員会開催時にはパソコンを所持しているメンバーにはパソコン持参の徹底を行ってください。
- ⑬本年度は県外での事業ということもありメンバーが参加しやすいよう飲食代や宿泊代を事業費より捻出しました。反対意見もありましたが出席率の効果はありましたので再度検討させていただきます。
- ⑭例年小学生を対象に青少年健全育成事業を行ってきましたが、本年度は子どもから大人へ成長する過渡期であり悩み多い思春期でもあり、また歴史背景をしっかりと理解した上で参加してもらいたく中学生を対象にしました。難しい年代ではありましたがバス内や作業内で会話をし寝食を共にするうちに打ち解けることが出来、大人と中学生それぞれの目線で命について話をする中でお互いに多くの気づきや学びを得ることが出来ました。
- ⑮本年度は事業後時間をかけて多くの経験を積んだ上で事後学習会をしなければ有意義なものにならないと考え事後学習会は行いませんでした。事業によって事後学習会が必要か不要かは委員会で十分検討すべきだと思います。ご検討をよろしくお願いします。
- ⑯納期のかかる物品の発注や保険を申し込む際は十分確認を行い、余裕をもった対応をお願いします。また、保険は必ず参加者に合った内容で参加人数全員分を掛けるよう確認してください。
- ⑰天草ケーブルテレビの撮影料は基本的に天草島内での撮影は無料、島外にて撮影を行う場合は内容や時間、後援や協力の有無などを考慮しその都度見積もられるとのことですので事前に良く協議されて予算計上されてください。また映像を編集していただく際も料金が発生しますので合わせて協議されてください。
- ⑱Tシャツ等のプリント加工をされる場合、納期に数週間の時間がかかると思いますのでその時間を考慮した上で余裕を持った発注を心がけてください。
- ⑲計画時から出発式や解散式の雨天時の対策や会場の確保を行ってください。
- ⑳市の補助金の振込日は毎月5日になっています。12月審議後に支払申請を提出しては遅くなるので遅くとも11月までに事業報告の審議を提出されてください。

Ⅲ. 事業名【事業の想いを繋ぐ想い！一人ひとりのベクトルを合わせよう！！】

1. 事業目的

(対内)

継続して行われている事業の一つを取り上げて、経緯、現状を把握し事業に対する目的を再認識する中でメンバーの想いを明確にし、向かうべき方向性を一つにする事を目的とする。

2. 実施日時・場所

2011年 11月15日(火) 20:00～20:45 11月度 例会企画

2011年 12月 1日(木) 12月度 例会内にて報告書配布

肥後銀行天草支店3階

3. 参加人員

(内部)理事・役員 23名

メンバー 14名

合計 37名

4. 事業内容

(1)FAXアンケートにて現在継続している事業で事業計画書を作成せず、予算執行してしない5つの事業について(A.打ち水推進事業・B.普通救急救命講習・C.My箸推進運動・D.献血推進事業・E.天草ユナイテッドチルドレン)全メンバーの現状について問います。そこで携わっているメンバーが一番少ない事業を例会企画にて取り上げ検証する。

<例会企画>

(2)委員会にて当時行われた〇〇事業(選択された事業)の経緯を調べメンバーに発表する。

(3)「〇〇事業」(選択された事業)に携われた現役メンバーに当時の想いを話していただく。

(4)参加メンバーは委員会、執行部別(事務局は執行部に属す)に分かれていただき、検証の手法として、事前に集計したアンケートを元に問題点や改善策、今後の事業展開について話し合っていただく。

<報告書>

(5)例会企画時にいただいた意見や考えを集計し、また青少年育成委員会の見解を踏まえた検証結果を載せた報告書を全メンバーに14月度例会にて配布して、今後の事業開催の参考資料とする。

5. 成果

①過去の事業に携わる事なかったメンバーにMy箸推進運動の経緯、目的、想いを例会に参加したメンバーに周知する事で再認識してもらう事が出来た。

②事業実施に至る想いや現状を知ってもらう事で今後の事業展開への参考になり、参加メンバーに事業の想いを継続していく事の素晴らしさと難しさを共感することが出来た。

③例会企画にて出した意見を取りまとめた報告書を作成し配布する事で、My箸推進運動の今後の方向性をしっかりと導き出す事が出来た。

6. 引継事項

①過去の事業を検証するには必ず十分な時間を作り取り組んで下さい。

②年に一度は過去の事業を振り返り検証する場を設けて、全メンバーで考える機会が必要だと思います。今後ご検討下さい。

③講師を依頼する際には綿密な打ち合わせをし、当日キャンセルが出た場合の事を考え別の手法や代理を設け準備して下さい。

④例会などでメンバー以外に参加される方がいる場合の対応をお願い致します。

iv. 事業名【会員拡大事業】

1. 事業目的

天草の明るい豊かな社会の実現のため、また、会の存続のために会員拡大を行う。創立50周年時には会員数100名を目指す。

2. 参加人員

(内部)理事・役員	3名
メンバー	8名
合 計	11名

3. 事業内容

(1)委員会メンバーより入会候補者をリストアップし、複数の委員会メンバーでチームを作り勧誘にあたる。必要に応じて宝島づくり委員会や執行部と連携し入会へ結びつける。

4. 成 果

①目標3名に対して、入会者数2名

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	10月7日	いけす料理とらや	委員会幹事・会計幹事・選考委員の選出 年間事業計画書について	6	5	55%
2	10月21日	JC会館	年間事業計画書について	4	7	36%
3	11月8日	JC会館	年間事業計画書について JCサッカーフェスティバル天草について	5	6	45%
4	12月14日	JC会館	年間事業計画書 JCサッカーフェスティバル天草について 過去の事業の検証について 青少年健全育成事業について	5	6	45%
5	12月19日	屋外	現地調査	5	6	45%
6	1月10日	委員長自宅	JCサッカーフェスティバル天草について 過去の事業の検証について 青少年健全育成事業について	6	3	66%
7	1月18日	JC会館	JCサッカーフェスティバル天草について 過去の事業の検証について 青少年健全育成事業について	5	4	55%
8	2月10日	JC会館	JCサッカーフェスティバル天草について	6	3	66%
9	3月1日	JC会館	JCサッカーフェスティバル天草について 過去の事業の検証について	6	4	60%
10	3月10日	JC会館	過去の事業の検証について 青少年健全育成事業について	6	4	60%
11	4月4日	JC会館	JCサッカーフェスティバル天草について	6	4	60%
12	4月18日	JC会館	青少年健全育成事業について	7	3	70%
13	5月1日	屋外	現地調査	4	6	40%
14	5月2日	JC会館	青少年健全育成事業について	3	7	30%

15	5月13日	JC会館	青少年健全育成事業について	3	7	30%
16	5月18日	JC会館	青少年健全育成事業について	3	7	30%
17	5月31日	JC会館	青少年健全育成事業について	4	6	40%
18	6月13日	JC会館	青少年健全育成事業について	6	5	54%
19	7月4日	JC会館	青少年健全育成事業について	6	5	45%
20	7月11日	JC会館	青少年健全育成事業について	6	5	45%
21	7月26日	JC会館	青少年健全育成事業について	6	5	45%
22	8月2日	JC会館	青少年健全育成事業について	6	5	54%
23	8月5日	JC会館	青少年健全育成事業について	8	3	72%
24	8月11日	JC会館	青少年健全育成事業について	5	6	45%
25	8月17日	JC会館	青少年健全育成事業について	6	5	54%
26	8月18日	JC会館	青少年健全育成事業について	6	5	54%
27	8月19日	JC会館	青少年健全育成事業について	8	2	72%
28	9月13日	JC会館	青少年健全育成事業について 過去の事業の検証について	6	5	54%
29	10月4日	JC会館	青少年健全育成事業について 過去の事業の検証について	5	6	45%
30	10月18日	JC会館	青少年健全育成事業について 過去の事業の検証について	5	6	45%
31	11月13日	JC会館	過去の事業の検証について	5	6	45%
32	11月14日	JC会館	過去の事業の検証について	6	5	54%
33	11月21日	JC会館	青少年健全育成事業について 過去の事業の検証について 年間事業報告書について	4	7	36%
34	11月29日	JC会館	青少年健全育成事業について 過去の事業の検証について 年間事業報告書について	7	4	63%

委員長所見

本年度の青少年育成委員会では青少年の健やかな成長、その成長による健全な活気ある地域社会の実現を目標に活動してまいりました。JCサッカーフェスティバル天草、一瞬懸命～知覧 天草 過去 未来～の両事業とも初の試みということで委員会メンバーから多くの意見や提案があり、多くの議論の中から素晴らしい事業になったと思っております。問題点もあったと思いますが、参加者の保護者の方々からも是非来年も行って欲しいというご意見を頂き、本当にこれらの事業をやってよかったと思えました。過去の事業の検証については当初の予定よりも大幅に開催が遅れ、当初とは違った形となり皆様には大変ご迷惑をおかけしました。しかしながら、理事のみならず全メンバーでベクトルを合わせ、到達点をしっかり共有することが事業において大切であると思っただけだと思います。今後の事業へ役立てて頂けたら幸いです。卒業を迎える年に青少年育成委員長をさせていただき、改めて仲間の大切さ、連帯感、お互いを助け合う心、その心と心のふれ合う楽しさを実感させていただきました。本当に青年会議所に入会して良かったと思っております。担当副理事長をはじめ委員会メンバー、理事の皆様、そしてフロアメンバーの皆様にはご迷惑をおかけいたしました。なんとか一年間職務を全うすることが出来ました。心より感謝いたします。

担当副理事長所見

理事長所信の中に「入は子どもの時に、より多くの大人達の思いやりに触れ、より多くの子ども達同士で関わり合いを持つことで、将来の人間形成に大きく影響すると言います」という文言がありました。そして、委員長が掲げた「命の大切さ」。その2つの熱き想いを形にするために青少年育成委員会メンバーは文字通り一丸となって取り組んでいただいた一年だったと思っております。委員長と両副委員長で事業毎に担当を分担し、各々が事業を組み立てた事で3事業それぞれに特色がありました。しかし、事業によっては想いをなかなか言葉に表せず、また議案書にも上手く反映出来ずに計画通りにいかなかった事業もありました。担当副理事長として自分の不甲斐なさや力不足を感じ、委員会メンバーにも負担を掛けたと反省しております。ただ、今年一年の活動は自分にとって確実な成長に繋がりましたし、委員会メンバーにおいても間違いなく個々の成長に繋がったと確信しています。想いを形にする事の難しさ、ゼロから事業を立ち上げる事の難しさ、そして楽しさ。それを経験することが出来た2011年度に感謝しますし、常に楽しく前進し続けてくれた委員会メンバーに心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

2011年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名:組織連携推進委員会
- 担当副理事長名:段下 倫
- 委員長氏名:池崎興二
- 副委員長氏名:若杉修二・小山 裕士
- 委員氏名:久保孝雄・田中修・佐々木慎也・中本太樹・藤本深子・宮崎正臣・上元賢正・久木山智哉・小林三剛
松永英也

I. 事業名【卒業式の企画・運営】

1. 事業目的

(対外)

卒業生のこれまでの活動をシニアの先輩方やご家族に知っていただき、今後も続くシニアクラブでの交流やご家庭でのコミュニケーションの一助となることを目的とする

(対内)

メンバー全員で卒業生の青年会議所活動の功績を称え、JC生活最後に忘れ得ぬ感動を体験して頂き最高の思い出に残る式を執り行い。またメンバーにも感動を共感してもらい、今後のJC活動の糧として頂くことを目的とする。

2. 実施日時・場所

2011年12月18日(日) 18:30~21:45

ホテルアレグリアガーデンズ天草 天草市本渡町広瀬996 TEL 0969-24-0670

3. 参加人員

(外部)シニアクラブ	22名
卒業生家族	14名
(内部)理事・役員	27名
メンバー	18名
その他	1名
合 計	82名

4. 事業内容

(1)本年は卒業生やシニアクラブの先輩方の熱い思いや経験を共感してもらうために、歓談に重点をおく。

(2)例会と卒業式を別日に開催にする事で、卒業式をスムーズな運営で行う。

(3)卒業式にシニアクラブの先輩方と卒業生のご家族に参加して頂くことで、シニアクラブ会員、ご家族、現役メンバーが一体となって卒業生を送り出すことが出来る。

(4)現役メンバーが感謝の気持を込めた演出を行い、2011年度の卒業生を送り出す。

5. 成果

(1)卒業生のご活躍をシニアクラブの先輩方やご家族に知って頂き、交流を図ることができました。

(2)卒業生の功績を称え、思い出に残る式を執り行うことができました。また、メンバーにも感動を共有していただき、今後のJC活動の糧としてもらうことができた。

(3)本年は卒業生やシニアクラブの先輩方の熱い思いや経験を共感してもらうために、歓談に重点をおいた運営を行い、卒業生やシニアクラブの先輩方メンバーを同席にした結果、より親睦を深めることができた。

(4)現役メンバーが感謝の気持を込めた演出で、涙あり笑いありの卒業式となり2011年度の卒業生を送り出すことができた。

(5)卒業生の予定を考慮した結果、地区・ブロックの全事業終了後日程を設定することで最後の事業として卒業生を送り出すことができた。

(6)ビュフェスタイルの料理からテーブル料理に変更することで、料理を取りに行く時間を減らし、歓談の時間を有効に使った交流を図ることができた。

6. 引継事項

【日程について】

- ① 本年は例会と分けて単独での卒業式を行いました。例会と合同で行う事で、出席率の向上が見込めるメリットや長時間におよぶ事業になるデメリットなどそれぞれありますので、次年度委員会でも同日開催については、検討を重ねてください。
- ② 日曜日開催を行いました。仕事の都合上どうしても参加できないメンバーもいる反面、日曜日から出席できたメンバーもいたので、開催日時は曜日も考慮し決定してください。
- ③ 本年は、卒業式の日程がPTAの会議と重なってしまい、シニアクラブの参加が少なくなりましたので、PTA等の学校行事の日程も確認を行なってください。

【案内について】

- ④ 11月2日に案内を行なったのですが、現役、シニアクラブ共に返信率が悪く、電話での確認が多かったため、返信期日は余裕をもって設定してください。
- ⑤ シニアクラブ案内の際には、FAX、郵送、メールと方法が異なりますので、案内漏れのないように行なってください。

【備品について】

- ⑥ 席次表については直前まで変更がありましたので、会場と打ち合わせを良く行い印刷はギリギリまで待って行なったほうがいいと思います。また、委員会だけで決定せず、必ず執行部に確認を取って決定してください。
- ⑦ 本年、備品リストに国旗、JC旗が抜けておりましたので、備品リスト作成の際には委員会にて良く検討とチェックを行なって決定してください。
- ⑧ シナリオの作成の際には、司会担当者との打ち合わせを良く行い、読みやすく解りやすいシナリオを作成して本番に臨んでください。

【運営について】

- ⑨ 卒業生、シニア、現役メンバーを同席にした配置は、多くの方から好評をいただきましたので、次年度でも検討してください。
- ⑩ 新入会員にアテンドをしてもらう際には、打ち合わせも兼ねて、一時間前には会場に来てもらい実施の方がいいと思います。
- ⑪ 委員会メンバー全員に役割を持たせて、積極的に関わってもらう手法で運営してください。
- ⑫ 本年は計画上8名と多くの卒業生でしたので、贈る言葉、卒業生挨拶を2部構成にして途中で休憩時間を設定しましたが、先輩やメンバーからも好評でしたので、その年の人数も考慮して検討して下さい。
- ⑬ 寄せ書きについては、当日までに書いていただくことが望ましいので、委員会メンバーで手分けして、各委員会を回るなど手法を検討してください。
- ⑭ 終了時刻が予定を大幅に超過してしまいましたので、超過する場合の事も考えて会場の予約についても時間的余裕を持って予約できるかを会場側に確認するか、運営の際にタイムキーパーを配置するなどして時間どおりの運営を心がけてください。
- ⑮ 当日のリハーサルは会場と打ち合わせの上、時間に余裕を持って行なってください。
- ⑯ 卒業生の入場シーンを設けずに、スタート時から着座して頂いている状況で開会しましたが、先輩方からもスムーズに歓談に入ったので良かったと声を頂いたので検討して下さい。
- ⑰ 卒業生紹介は、PVではなく写真データを利用し映像で流しましたが、近年の写真だけではなく、過去の写真も沢山収集し作成した方が、思い出を振り返る事が出来ると思います。年当初から、卒業生の当該年度写真を集めるフォルダを事務局のパソコンにも準備して億と良いと思いますし、その際には広報渉外委員会にも協力をお願いしておくことよりスムーズに進められると思います。

【二次会について】

- ⑱ シニアクラブと合同で二次会を行いました。シニアクラブの先輩方との交流にもなりましたので次年度でも検討してください。

II. 事業名【羽ばたけ！天本】

1. 事業目的

(対内)

青年会議所のネットワークである、LOMの枠を超えた人と人との繋がりを実感し、各種大会へ積極的に参加することで他LOMメンバーとの友情を深める。また、それぞれの地域における活動を学び、JAYCEEとしてのさらなる成長へ繋げることを目的とする。

2. 実施日時・場所

熊本会議 2011年2月26日(土)
会議 19:00~20:45
懇親会 21:00~22:22

熊本ブロック会員大会	2011年7月 9日(土)~10日(日)
9日 分科会	13:00~15:00
記念事業	15:30~18:00
大懇親会	19:30~21:30
10日 記念式典	10:30~11:50
九州地区大会	2011年9月 9日(金)~11日(日)
10日	メインフォーラム 10:00~12:00
	地域防災フォーラム 13:00~14:30
	九州ツーリズムフォーラム 15:00~17:00
	大懇親会 19:00~22:00
11日	メインフォーラムⅡ 9:30~10:40
	大会式典 11:00~13:00
熊本ブロック協議会 アカデミー事業	2011年10月8日(土) 受付 11:30 開始 12:00
VMVセミナー	12:00~14:00
JapanPrideセミナー	14:15~16:15
G・D「地域の為にできる事」	16:30~18:30
レクリエーション	18:30~19:00
居酒屋の青春	19:30~21:00

3. 参加人員

熊本会議	
(内部)理事・役員	21名
メンバー	12名
合 計	33名
熊本ブロック大会	
(内部)理事・役員	21名
メンバー	10名
合 計	31名
九州地区大会	
(内部)理事・役員	20名
メンバー	6名
合 計	26名
熊本ブロックアカデミー事業	
(内部)理事・役員	10名
メンバー	0名
合 計	10名

4. 事業内容

- (1)現在、当LOMの約30%を数えるアカデミーメンバーへ経験豊富なメンバーが、共に行動し積極的に参加呼びかけを行うことで、参加率向上に繋げる。
- (2)メンバーに各種大会・事業スケジュールをメールで発信し、参加意欲の向上を図る。
- (3)例会にて、熊本ブロック協議会の大会運営委員会出向者と協力し、スマイルや出向者報告等の中で、大会のPRを行い参加促進に繋げる。また、その他の大会・事業においては、専務と協力し参加促進を行う。
- (4)熊本会議は、長時間におよぶ会議・懇親会の出席となるためバス移動を計画して、メンバーの体力的経済的負担を軽減し、移動中にもメンバー間の交流を図ります。
- (5)熊本会議に参加することで、本年度の熊本ブロック協議会事業や役員体制等を知り、どのような人がどのような思いを持って事業を行うかを例会や各委員会開催時にメンバーへ伝えることにより、その後の各種大会事業への自主的な参加意識の向上に繋げる。
- (6)熊本ブロック大会と九州地区大会に向け部会を結成し、ブース出店を計画することで参加促進に繋げ、他LOM、他ブロックと交流を図り、青年会議所活動により一層の興味を持ってもらう。
- (7)当委員会で、各種大会・事業の案内文・出欠確認と参加者名簿を作成し、事務局や例会時に張り出すことで、参加意識の向上につとめる。
- (8)燃料費補助金の支給は、事業実施3日前までの申請書提出を原則とします。申請されたメンバー全てに支給を行いますが、提出締切り後の申請については、支給致しません。

5. 成 果

- (1)熊本会議ではバス移動を実施し、移動時から多くのメンバーが交流を行いメンバー同士の親睦を深めることが出来ました。また、自己紹介や各委員長からのPRタイムを行うことにより、アカデミーメンバーの青年会議所活動に対する理解を深めることが出来ました。
- (2)熊本ブロック大会・九州地区大会に、前年度を上回るメンバーで出席しブース出店を行い、天草の物産をPRして他LOMメンバーと接することにより、他LOMメンバーとの交流を持つことが出来ました。
- (3)ブース出店時に天草の観光パンフレットも同時に配布し、天草の物産や観光をPRすることが出来ました。
- (4)名寄JCブースを出店することにより、メンバーに名寄の物産を知っていただくことで、友好JCとの具体的な関わりを考えるきっかけにすることが出来ました。
- (5)ブロック会長輩出LOMとして熊本会議、ブロック大会in阿蘇に過去の参加実績を上回る人数で参加出来たことにより、メンバーが出向について考える機会とすることが出来ました。
- (6)地区大会では段下委員長(九州地区協議会九州ツーリズム確立委員会)のフォーラムに参加し、フォーラム進行を学びメンバーに地区出向や大会の運営を考える機会にすることが出来ました。
- (7)メンバーが各種大会に出席して、普段は知り合えない他LOMのメンバーと面識を持つことにより、出向に対する意識を高める事が出来ました。
- (8)各種大会に参加して、LOM以外での青年会議所の活動を知ることにより、青年会議所活動の可能性を知る事が出来ました。
- (9)各種大会に参加して、出向メンバーの各出向委員会での活動を直接見聞することにより、出向に対する意識を高める事が出来ました。
- (10)各種大会に参加して共に移動し宿泊することにより、メンバー間の友情を深め、青年会議所活動に対する意見交換を行い、より積極的な行動を行う機会とすることが出来ました。

6. 引 継 事 項

- (1)メンバーへの参加呼びかけはメールや電話だけでなく、直接委員会に訪問して発信していった方が良い。その時には、スケジュールだけではなく参加するメリットとして、フォーラムや分科会などの学び、楽しい大懇親会の魅力も一緒に伝えなければ、参加率の向上には繋がらないと思いますので、事前に演出や工夫をご検討下さい。
- (2)バス移動はメンバー同士が交流し、青年会議所活動を話し合う場にもなりますので、機会があれば次年度でも検討して下さい。
- (3)ブース出店を計画する場合は、当日人手不足になる場合もあることから、人選を早期に行い計画した方が良い。
- (4)ブース出店料は、地区大会実行委員会が決定することだが、ブースの内容と密接に関わってくるので早期に確認した方が良い。
- (5)地区大会への参加は遠方になるため、メンバー参加の意識付けとして「例会時に参加PR映像を流す」など、参加促進方法の工夫の実施を検討して下さい。
- (6)フロアメンバーの参加を促進するためには、やはり出向してもらい参画することが一番の参加促進になると思いますので、ぜひ次年度以降も多くの出向者輩出をご検討下さい。
- (7)ブース出店を行う場合は予算もですが、運営方法等をしっかりと担当部会と打ち合わせを行い、円滑な運営をこころがけて下さい。
- (8)メンバー各自の出向先委員会での担いや動向もあるので、当日の状況を調査しサポートすることを検討して下さい。
- (9)燃料費補助金を支給する場合は、事前申請にて実施した方が、出しようというメンバーの意識も高まると思います。しかし、当日に急遽予定が変更になる場合もあるので、金額を設定した上、領収書(レシート)と引き換えにチケットを支給するなどの改善が必要です。

Ⅲ. 事業名【「JCI Nothing But Nets キャンペーン」の推進】

1. 事業目的

(対外)
世界の貧困問題のひとつであるマラリアに関心を持って頂くと共に、青年会議所の活動・運動を市民に広く知って頂くことを目的とする。

(対内)
「JCI Nothing But Nets キャンペーン」のPR活動を通して、国際社会問題を認識し主体的に取り組むことで「奉仕」の精神を養う

2. 実施日時・場所

新年会会場:天草シーサイドホテル

熊本会議：熊本ホテルキャッスル

例会会場：肥後銀行3F

3. 参加人員

(外部)講師	1名
(内部)理事・役員	28名
メンバー	46名
合計	75名

4. 事業内容

- (1)天草ケーブルネットワーク様様の御協力を頂き、30秒程度のPR映像を作成して、1日4回1カ月間の放映を街頭募金活動の実施前に行う。
- (2)募金箱とポスターを1セットにして、天草島内の多数の方々が集まる場所に設置・配布をし、3カ月を1クールとした募金回収を当委員会にて行う。但し、メンバー関係の設置場所については、毎月の例会時に持参してもらう。
- (3)例会企画で「JCI Nothing But Nets キャンペーン」を周知し、メンバーの意識向上を図る。
- (4)当LOMホームページと天草Webの駅にも募金箱の設置場所情報を掲載し、運動の周知と募金をつのる。
- (5)世界マラリアデー(4月25日)に伴い、4月中に街頭募金活動を行う。
- (6)各委員会と連携し事業開催時に合わせて「JCI Nothing But Nets キャンペーン」運動を広く発信する。
- (7)天草市役所内の記者クラブに依頼し、マスコミを通じた天草内外への発信を図る。
- (8)天草ユナイテッド・チルドレンとの連携を図るため、街頭募金活動等への協力を依頼する。
- (9)募金目標金額を200,000円に設定してメンバーの意識の向上を図る。
- (10)日本青年会議所より講師をお招きして例会企画の中で講演をいただく。

5. 成果

- (1)天草ケーブルネットワーク様様の御協力を頂き、30秒程度のPR映像を放送して頂いたことで、マラリアに対する地域の方々に関心を持ってもらうことが出来た。
- (2)総務広報委員会と協力して、新年賀詞交歓会でNBN募金を実施した結果、メンバーに加えて、出席して頂いた来賓とOBにJCI Nothing But Nets キャンペーン(以下、NBNに略称)をPRすることが出来た。
- (3)機関誌あしなみにNBNを取り上げてもらった結果、OBや配布先の方々にも周知することが出来た。
- (4)総務広報委員会の協力を経て、例会前に会場にてNBNの資料映像を上映したことでメンバーのNBNに対する関心を高めて、国際社会問題に取り組む機会とすることが出来た。
- (5)総務広報委員会と交流委員会の協力により、例会でのスマイル収益をNBN募金に充てることで、LOMメンバーのNBNに対する認識を深めることが出来た。
- (6)3月の例会企画で、マラリア問題を抱える現地を経験された講師をお招きしたことにより、NBNに加え、国際社会に関する諸問題についても認識してもらう機会にすることが出来た。

6. 引継事項

- (1)天草ケーブルネットワーク様様の御協力を頂き、PR映像を放送しましたことは非常に良い広報手段でした。次年度で計画する時は、予算を計上して長期的な広報の実施をご検討下さい。
- (2)例会企画に講師を招く時は、事前の打ち合わせが非常に重要なので、事業計画段階での人選を行った後、講師依頼に至るまでに必ず打合せを実施し、本当にその講師でいいのかを委員会で十分に検討して下さい。
- (3)本年は、東日本大震災の発生により、募金によるNBN推進が難しくなりました。募金によるNBNの推進が行いやすい状況とは言い難いことから、次年度は自動販売機の設置推進の実施を検討して下さい。
- (4)次年度以降も継続使用が可能なNBN募金専用の銀行口座を設けましたので、検討して下さい。
- (5)日本JCは、国連ミレニアム開発目標に沿って、今後5年間のLOM重点依頼実行としての取り組みを各地へ発信しています。次年度以降の問い合わせ先については、年度により、本会、九州地区、熊本ブロックも担当委員会が変わりますので、各年度の職務分掌を確信し、推進方法等の確認を行って下さい。

IV. 事業名【3分間スピーチ】

1. 事業目的

(対内)

発表者は自分の意見や思いを伝え、聞き手は発表者の思いを理解する事により、メンバー一人ひとりの能力向上に繋げる。また、出向者メンバーから日頃の活動状況及び近況報告をする事で出向者メンバーの意識を高め、出向する意味を理解してもらい参加促進し、出向者の支援を行う。

2. 実施日時・場所

通年(例会)11分間

例会会場

3. 参加人員

(内部)理事・役員	145名
メンバー	366名
合計	511名

4. 事業内容

- (1)11分間の委員会アワーにおいて、委員会から発信するテーマに沿った内容で、3分間スピーチと出向者報告を状況に応じて組み合わせて行う。
- (2)テーマを発表し1名を指名する。発表者はテーマに沿った内容をまとめ、メンバーの前で3分間スピーチを行う。また、3分間スピーチの後に1名指名し、発表者が何を言ったかを1分間で要約してもらう。
- (3)出向者報告を1名指名する。出向先での事業報告及び近況報告を3分間の時間の中で発表し、出向に対しての取り組みや情報提供をする事で、出向への参加促進を促し一人でも多くの出向者を支援する。
- (4)今回の発表者が次回の発表者を所属委員会以外から指名する事で、参加意識を高めコミュニケーションを深める一助とする。
- (5)出向者スピーチでは、出向委員会の様子や事業への取り組み、事業内容を状況に応じて行う。
- (6)発表者が欠席した場合は、欠席した委員会の中から発表者を指名する。

5. 成果

- (1)毎月のテーマを委員会から発信し、発表者も前月の例会時に事前指名をさせて頂き3分間スピーチに臨んで頂きました。発表者にとっては、一ヶ月間の時間的猶予とテーマが事前にわかっているなか話すことの難しさといった経験と良い意味での緊張感を持って臨んで頂く事が出来たため、発表者の成長を促すきっかけにすることが出来た。
- (2)出向先の事業報告や近況報告を出向者報告の時間を設けて発表してもらいました。会員が集う例会で発表してもらった事で、出向先委員会の具体的な活動等を出向していなかったメンバーに伝え、意識を高めることが出来た。
- (3)要約者の発表を行うことにより、メンバーが発表者のスピーチを意識して傾聴することが出来た。
- (4)スピーチ後に内容の要約を行った結果、発言のポイントをまとめ発表者の最も伝えたい内容を的確に理解しようとする修練に繋げることが出来た。
- (5)コメントカードを記名制にしたことで、記入するメンバーもしっかりとした意見を責任持って書いて頂くことが出来た。
- (6)記名制にしたことは、スピーチを聞く側にとっても発表者のスピーチを意識して傾聴することで、発表者の想いを理解することに繋がった。

6. 引継事項

- (1)スピーチ後に実施した内容の要約は、ただ感想を述べてもらう手法より、会員の能力向上に繋がる優れた方法だと感じましたので、次年度でも検討して下さい。
- (2)例年、出向者報告を年末にまとめて実施していましたが、本年は毎月の例会での発表と致しました。それにより、多くの出向メンバーより報告して頂くことが出来たので、次年度も出向者数に関わらず検討して下さい。
- (3)3分間スピーチで要約を行う場合は、例会に出席出来ないメンバーもいるので、年当初だけでなく、司会者から要約の意味を説明する必要があると思うので、検討して下さい。
- (4)コメントカードを使用する場合は、記名制にするか無記名制にするかは目的によって変わってくると思いますので、目的に沿った記名の手法を検討して下さい。
- (5)出向者報告については、出向経験の豊富さや一年の中で、経験浅い前半と経験を積んだ後半とでは、気づきや学びが異なり伝える内容にも差があります。出向者報告を企画する時には、経験豊富なメンバーに年前半に実施してもらった方が、一年を通してバランスの良い報告をすることが出来ると思いますので、発表者を指名する場合の参考にして下さい。
- (6)事前指名を行う場合は、指名したメンバーが例会に出席するか確認して、欠席する場合は所属委員会と例会前に変わりの発表者について、打ち合わせを行って下さい。
- (7)コメントカードとリングを次年度も使用するのであれば、本年度の未使用用紙があるので使用して下さい。

V. 事業名【出向者の支援】

1. 事業目的

修練の為、出向を決意したメンバーに一年を通して楽しく活動してもらう為の支援を行う。

2. 実施日時・場所

通年

3. 参加人員

九州地区協議会	8名
熊本ブロック協議会	25名
合計	33名

4. 事業内容

(1)出向先の委員会と連絡し、出向メンバーの参加状況を把握する。またアカデミーメンバーのサポートを経験豊富なメンバーにして頂く。

5. 成果

(1)一年間を通して出向メンバーに出向して頂き、修練を通じてメンバーの資質向上に繋げることが出来た。

6. 引継事項

- (1)出向することは、メンバーの資質向上に繋がるとともに、LOMの枠を超えた仲間作りにも成りますので、次年度も是非出向を推進して下さい。
- (2)各種大会や懇親の場では、経験豊富なメンバーがアカデミーメンバーをサポートすることでより円滑な交流を図ることが出来る。

VI. 事業名【渉外活動(各種団体協力依頼の窓口)】

1. 事業目的

各種団体からの依頼を迅速に整理し対応する。

2. 実施日時・場所

通年

3. 参加人員

(内部)理事・役員	5名
メンバー	11名
その他	1名
合 計	17名

4. 事業内容

(1)執行部・担当委員会と連携し、依頼をFAXメールを活用しメンバーに発信する。

5. 成果

(2)各種団体よりの依頼を事務局、専務理事と協力してメンバーに発信し、外部よりの依頼を迅速に対処することができた。

6. 引継事項

(1)各種団体よりの依頼をメンバーに発信する際には、迅速な対応をする為に専務理事の確認後、執行部、担当委員会と連携し発信するためのフローチャートを再考して下さい。

VII. 事業名【アカデミー研修事業の実施】

1. 事業目的

アカデミーメンバーに全員出向して頂き、今後の青年会議所の活動に積極的に参加する意識の向上に努める。

2. 実施日時・場所

2011年10月8日(土)

八代ハーモニーホール

3. 参加人員

(内部)理事・役員	10名
メンバー	0名
合 計	10名

4. 事業内容

(1)ブロックアカデミー事業に積極的に参加して頂く。

5. 成果

(1)VMVセミナーではJCの成り立ちから学び、JC活動に参加する意識を高めることが出来た。
(2)JAPAN PRAIDセミナーでは今の日本にどんな問題があり、何が必要かをセミナーを通して学び、メンバーの資質向上に繋げることが出来た。

6. 引継事項

(1)アカデミー事業参加者の促進を図る為には、ブロックだけでなく当LOMでも行った方がメンバーの参加を見込めると思いますので検討して下さい。
(2)アカデミーメンバーもブロックのアカデミー委員会に出向することで、事業参加に繋げることが出来ると思いますので出向を推進して下さい。

VIII. 事業名【会員拡大推進の実施】

1. 事業目的

天草の明るい豊かな社会の実現のために、また会の存続のために会員拡大を行う。創立50周年時には会員数100名を目指す。

2. 実施日時・場所

通年

3. 参加人員

(内部)理事・役員	3名
メンバー	10名
合 計	13名

4. 事業内容

(1)委員会メンバーと情報を共有して、素早い拡大活動を行う。また、担当委員会と協力して3名以上の拡大を目指す。

5. 成果

目標3名に対して、入会者数0名

6. 引継事項

(1)委員会メンバーの意見集約、入会候補者のリストアップを早めに行い、担当委員会と協力して拡大活動を行ってください。

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	10月4日	JC会館	年間事業計画について 委員会名、委員会人事について	4	8	33%
2	10月24日	JC会館	年間事業計画について 各事業について	3	9	25%
3	11月5日	JC会館	年間事業計画について 各事業について	4	8	33%
4	11月17日	JC会館	年間事業計画について 各事業について	3	9	25%
5	12月3日	JC会館	各事業計画書について	3	9	25%
6	12月10日	JC会館	各事業計画書について	4	8	33%
7	12月23日	JC会館	各事業計画書について	4	8	33%
8	1月24日	JC会館	委員会アワー(3分間スピーチ)について 「JCI Nothing But Nets キャンペーン」について	5	7	42%
9	2月10日	JC会館	委員会アワー(3分間スピーチ)について 「JCI Nothing But Nets キャンペーン」について 例会企画について 熊本会議参加促進について	6	6	50%
10	2月24日	JC会館	熊本会議について 「JCI Nothing But Nets キャンペーン」について 例会企画について	8	4	67%
11	3月7日	JC会館	「JCI Nothing But Nets キャンペーン」について 例会企画について 街頭募金について	4	8	33%
12	4月5日	JC会館	3月度例会企画の反省点について 募金箱配布について ブロック大会ブース出店について	4	8	33%
13	4月27日	JC会館	ブロック大会ブース出店について	3	9	25%
14	6月14日	JC会館	ブロック大会ブース出店について 委員会アワーについて	3	9	25%
15	7月19日	JC会館	卒業式について 「JCI Nothing But Nets キャンペーン」について	3	9	25%

16	8月2日	JC会館	卒業式について 地区大会について	3	9	25%
17	8月26日	JC会館	卒業式(演出・写真収集・記念品)について 地区大会ブース出店について	2	11	15%
18	9月27日	JC会館	卒業式(シナリオ・演出・写真収集)について 「JCI Nothing But Nets キャンペーン」について	4	9	31%
19	11月13日	JC会館	卒業式について 「JCI Nothing But Nets キャンペーン」について 報告書について	3	10	23%

委員長所見

本年、初理事として委員長を仰せつかり、委員会メンバーと一年間活動してまいりました。協働運動では、LOM重点依頼事項である「JCI Nothing But Nets キャンペーン」の勉強から始めました。マラリアに苦しむ子どもたちを少しでも減らすため必要な事業であり、メンバーや地域の皆様にとっかりと伝える必要があると思いました。NBN募金活動については、東日本大震災の発生もあり、当初の計画から大幅に内容変更することになりましたが、委員会として大震災用募金箱をメンバーに配布し募金を行いました。しかしながら「JCI Nothing But Nets キャンペーン」として、メンバーや多くの方々から協力を得て140,317円の募金をできたことは、ただただ感謝であります。羽ばたけ！天本と題し出向者支援をしようと、熊本ブロック会員大会、九州地区大会でのブース出店を行いました。ブロック大会では阿蘇JC、地区大会では大分JCの主管LOMメンバーとの打ち合わせを通して、当日の動きなど非常に良い経験になりました。私個人としては、今年ほどJC活動として遠方に赴いた年はありませんでしたし、新たな気づきや学びとすることができました。また、委員会アワードで、3分間スピーチを実施致しました。例会の場で、理事としてメンバーの前で発言するのは身が引き締まる思いがあり、そのことを委員会メンバーにも経験して欲しい時間だと感じ、司会役を委員会メンバー行ってもらいました。3分間スピーチは、例会の場でメンバーが発言する数少ない機会です。その運営を行うことができたのは、計画、運営から協力してくれた委員会メンバーの協力あってこそです。当委員会は、通年事業が多く一年間忙しく、また私が慣れていないこともあり一年間バタバタとしてしまい、委員会メンバーに迷惑をかけてしまった部分もありました。忙しい時間をやり繰りして委員会に参加し活動してくれたメンバーには感謝の言葉しかありません。それと同時に来るメンバーにだけ負担がいくことの無いような委員会運営方法が必要だと感じました。最後に本年は、委員長という役職をいただいた時は覚悟を決めて頑張っていこうと思いましたが、実際の動き出して行動しているうちに色々考えすぎた部分もあったのか、役に負けそうになった時もありましたが、周りの助けもあり一年間続けることができました。色々と力不足な自分を支えてくれた委員会メンバーや多くの周りの人には、感謝の言葉しかありません。本当に一年

担当副理事長所見

池崎委員長率いる組織運携推進委員会の皆さま、年当初から年度末の長い期間におよぶ職務を全うされたことに、尊敬の意を表します。担当の委員会事業は、やりたい事を形にするだけでなく、やらなければいけない事を形にするといった幅広い職務も含まれ、委員長も当初から苦悩しながらも想いを描き、一つひとつを着実に形あるものに変えていかれた事を昨日の出来事のように覚えています。寡黙にコツコツと取り組まれてきた姿勢は、初理事初委員長とは思えない前向きな姿でしたし、それを支えてくれたのは、委員会メンバーの一人ひとりであったと、改めて感謝申し上げます。委員会の事業に対する取組みは、LOM重点依頼事項である「JCI Nothing But Nets キャンペーン」推進に多くの方々のご理解と賛同を頂いた事で、スタートダッシュに成功したと感じています。その後発生した東日本大震災の支援に移行した際にも、委員長の迅速な対応とメンバーの協力を頂いたこともあり、積極的に取り組む事が出来ました。また、多くの出向者を輩出した本年は、出向者支援の一環として取り組んだ、天本ブースの出店を強いリーダーシップで無事に成功に導かれました。来店された方々からも喜びの声を頂き、参加したメンバーからも楽しく実施出来たと行って頂いた事は、委員会にとっても達成感を味わう瞬間でしたし、交流委員会と連携した友好JCの社団法人名寄青年会議所から取り寄せた特産品のピーアールもバッチリ決まり、最高の時間を過ごす事が出来たと感じています。そして、会員のスキルアップに取り組んだ3分間スピーチでは、発表するメンバーの個性を最大限に引き出そうと取り組まれた事は、メンバーに伝わったと確信しています。なかでも、12月例会で池崎委員長が「今年一年を振り返って」笑顔でスピーチされた「私自身にとっても成長と自信に繋がった一年でした」という言葉が、とても力強く印象的で、私事のように嬉しい気持ちでいっぱいでした。最後に、池崎委員長にとって卒業年度となる次年度は、入会間もないメンバーへ理事として学んだ経験の全てを伝授して頂けたら幸いです。そして、委員長を一年間支えてくれた委員会メンバーの皆さま、本当にありがとうございました。

2011年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名：総務広報委員会
- 担当専務理事名：船島健嗣
- 委員長氏名：吉田篤司
- 副委員長氏名：長山直仁・平井太宗
- 委員氏名：柴田渉・鉈落良紀・川上憲吉・長井正行・前田知洋・堀川勝功・井上雅之

I. 事業名【新年賀詞交歓会】

1. 事業目的

(対外)

社団法人天草本渡青年会議所のメンバーとOB・各種団体が新年の幕開けを祝い、交流を図ると共に、新年度体制お披露目の機会とする。

(対内)

2011年度社団法人天草本渡青年会議所のメンバーとOB・各種団体が新年の幕開けを祝い、各々の立場の中で、新年の挨拶や交流を図ると共に、新年度体制お披露目の機会とする。また、新年度最初の対外事業として、事業の準備段階から最終まで全委員会が関わり、連携を図ることで、メンバー間の交流を深める機会とする。

2. 実施日時・場所

実施日時

2011年 1月14日(金)

受付 18:00

開始時間 18:35

終了時間 20:35

実施場所・会場

天草シーサイドホテル

3. 参加人員

(外部)	来賓	18名
	OB	25名
	来訪JC	42名
(内部)	理事・役員	24名
	メンバー	10名
	その他	1名
合 計		120名

4. 事業内容

- (1) 執行部・各委員会に協力をいただき、当日のスムーズな進行のため下記のとおり役割を分担する。また、当委員会から担当者を配置することで、各委員会担当のサポートを行う。
- (2) 委員会毎に詳細な運営マニュアルを作成し、各委員会と綿密な事前打ち合わせを行う。
- (3) 関係他団体の新年スケジュールを確認し、より多くの方にご参加いただける日程で行う。
- (4) 全メンバーでのお出迎えに向け、LOMメンバーへ新年賀詞交歓会の周知徹底を行う。
- (5) スムーズな進行が行えるように、総合司会者・福引司会者・委員会を入れたシナリオの読み合わせ(リハーサル)を複数回行う。
- (6) より多くのメンバーが時間を掛けた賀詞交歓を行えるよう、会場関係者とシナリオに沿って音響や照明についての事前打合せを行い、会場側で音響を担当して頂くよう御願います。

(7)コート等のお忘れや取り間違いを防ぐ為に、ホテルとの打合せの際にはハンガーの数量なども確認し、預かり物を管理する為に必要な物は当日までに用意する。

(8)インカム(5台)を活用し、各担当持場間の情報共有を行う。

(9)全員がハッピー着用でおもてなしすることで、統一感を持たせる。

(10)より良い賀詞交歓の場にしてもらうために、当日はメンバー席を設けず来賓・来訪JCの方々への懇談の際に間合いを見ながら配慮のある挨拶とおもてなしに徹した行動をしてもらう。

(11)経験年数の長いメンバーがアカデミーメンバーと2人1組で廻り、紹介及び顔合わせを行う。

(12)直前理事長感謝状・花束贈呈や各委員会紹介等では、来賓、関係諸団体に注目して頂けるよう、司会によるアナウンスと共に会場全体の照明を落とすと同時にステージをスポット照明で照らすなど司会・音響・照明等に工夫をこらし、メリハリの効いた演出を行う。

(13)福引チケットの価格を2000円に維持することで、昨年並みのチケット収入を見込む事ができ、景品の質、数量ともに維持する。

(14)ご出席の来賓・来訪・OBの方々へ各委員会紹介及び事業紹介の資料を事前配布(受付時)させて頂くと共に、各役員の紹介時に映像でも案内し、短い時間でも充実した役員紹介を行う。

(15)来賓・来訪・OBの方々からでも話し掛け易くするため、参加するメンバー全員に自分のプロフィールを記載したネームプレートを着けて頂く。

5. 成 果

(対外的)

①9月下旬には開催予定日を設定し、県内各LOMとの日程調整を行ったことで、県内全LOMに参加していただき、交流を図ると共に新年度体制のお披露目を行うことができた。

②歓談前に新年度役員紹介と事業紹介を実施したことで、注目された中で新年度体制のお披露目を行うことができた。また、しおりと一緒に新役員紹介及び委員会事業紹介の資料を配布したことで、時間に縛られず新年度体制の詳細な紹介を行うことができた。

③ご来賓各位に理事長直筆のメッセージカードをお渡ししたことで、大変お喜びいただき、おもてなしの機会とすることができた。

④プロフィールカードを話題の一助とし、より良い交流を図ることができた。

(対内的)

①12月上旬から各委員会を訪問し、各委員会マニュアルに基づいた協力を呼びかけたことで、執行部を含めた全委員会に積極的に関わって頂き、委員会間の連携を深めることができた。

②各委員会を訪問することで、各委員会に参加しているメンバーとの交流を図ることができた。

③全体リハーサルを複数回にわたって実施したことで、メンバー同士の交流を深める機会を設けることができた。

④歓談前に新年度役員紹介と事業紹介を実施したことで、注目された中で新年度体制のお披露目を行うことができた。

6. 引 継 事 項

【スケジュールについて】

①上程スケジュールは10月協議、11月審議が望ましいです。他団体への案内や準備などをスムーズに行うことができます。なお、開催日時・開催場所については、他団体や他LOMのスケジュールを十分確認した上で、10月に部分審議を取ると、他団体や他LOMへの情報発信をより早く行うことができます。

②本年は金曜日開催だった為、特に飲食業のメンバー・OBの不参加が目立ちました。できるだけ多くの方が事業に参加しやすいよう、飲食業や小売業・サービス業のメンバーやOBを考慮し、金曜日、土曜日、日曜日の開催は避けて下さい。

【各委員会との連携について】

- ③委員会毎のマニュアルを作成し、各委員会を訪問・説明したことで、積極的に協力していただく事ができました。次年度も、より詳細なマニュアルを作成して、各委員会との打ち合わせを綿密に行ってください。特に、受付は人員が必要になりますので、7～10名程度配置できるよう計画されて下さい。
- ④多くのメンバーに事業に関わって頂くためにも、全メンバーに役割を落とし込む組織図の作成も検討されて下さい。全メンバーの参加が必要であることを伝えるためにも、事業に参画する目的と役割をより明確に伝えて下さい。
- ⑤本年同様にリハーサルは執行部や他委員会も交えて、複数回実施して下さい。パワーポイントも使用して、できるだけ本番に近いスタイルで行い、登壇者のアテンドやステージ上の演台を動かすタイミングや担当者などもしっかり把握できるようにして下さい。当日リハーサルは進行確認程度と考え、前日リハーサルや事務局リハーサルで詳細の確認を行ってください。

【案内について】

- ⑥本年度は出席者数及び返信率アップを図るべく、12月13日に案内文を発送後、返信期限を年内29日にし、早期案内と長めの返信猶予期間を設定致しましたが、締切日時点での返信率が30%程度に留まり、電話確認で大変な労力を要しました。案内文発送日は12月中旬で良いと思いますが、返信期限は最大10日間程度が良いと思いますので、発送日及び返信期限は十分に検討して下さい。なお、OBに対しては案内文発送前に電話連絡による参加推進もご検討下さい。
- ⑦他LOMへの案内は、郵便だけでなくメールでも案内されて下さい。事務局員の不在が多いLOMの場合には、FAX案内も併用して下さい。また、各LOMの専務理事予定者に電話連絡をすれば、更にスムーズな出欠返信が期待できると思います。

【備品等について】

- ⑧事業当日にも出席者の変更があり、直前まで席次が確定しませんでした。出欠状況は直前まで変動する可能性がありますので、席次表の印刷を前日夜や当日等、できる限り遅いタイミングで行うか、出席者一覧とテーブル配置のみをしおりに印刷し、席次は当日貼り出すなどを検討されて下さい。
- ⑨席次表の作成については、委員会だけでは判断が困難です。必ず、執行部に事前確認を取るようになって下さい。また、執行部に作成依頼することをご検討下さい。
- ⑩シナリオ作成の際、司会者毎のコメントを色分けして作成される事をご検討ください。本年は、司会者毎に文字の大きさやフォントを変えてモノクロで作成しましたが、色分けしたほうが、より分かり易いと思います。
- ⑪懸垂幕スローガンについては打ち合わせ時のデザイン案のみでなく、完成したものを事前に確認し、文言の間違いなどが無いかな必ず確認をして下さい。
- ⑫閉会後は速やかに撤収作業を行い、会場に看板等の備品を忘れることが無いよう、準備時の備品リストと照合した上でメンバーの車に乗せて下さい。万一、忘れ物があった場合は連絡をもらうよう、会場の担当者にもお願いして下さい。

【演出について】

- ⑬ご来賓へのおもてなしとして、ご来賓各位に理事長直筆のメッセージカードをお渡ししたところ、大変お喜びいただきました。次年度でも、おもてなしの工夫をされて下さい。
- ⑭直前理事長感謝状贈呈と新年度役員紹介並びに事業紹介を歓談前にしたことで、ご出席の皆様注目された中、実施することができましたので、タイムテーブル作成の参考にして下さい。また、他LOMの進行も参考にし、乾杯までの時間を短縮する為に簡略化できる部分が無いか等、歓談の時間をより確保できるような工夫もご検討下さい。
- ⑮しおりと一緒に顔写真入りの新役員紹介と委員会事業紹介の資料を配布したことで、時間に縛られず、より詳細な情報発信をすることができましたので、次年度もご検討下さい。
- ⑯会場の照明機材については、会場側で操作していただきますので、会場照明の明暗やスポット照明についてなど、照明・BGMの詳細を記したシナリオ作成し、事前に会場担当者との綿密な打ち合わせをして下さい。
- ⑰プロフィールカードは、OBからお褒めの言葉を頂戴しております。交流のより良いツールとなるよう、記載内容やデザインをご検討下さい。

【運営について】

- ⑰しおり作成の際は、テーブル毎に色の違う色用紙で作成することで、効率よくアテンドすることができます。しおりの色や大きさを工夫して、効率良い運営の一助として下さい。
- ⑱領収書の発行については、事前に切り取った上で団体毎やテーブル毎にまとめる等、スムーズに渡せる工夫をして下さい。
- ⑳受付と福引チケット販売用にお釣りを10万円用意しましたが足りませんでした。お釣りが不足する場合は、会場に両替して頂くようルール決めて下さい。

- ⑲会場の駐車場使用については、メンバー用に近隣駐車場を確保するかメンバーはできるだけ乗り合わせをして車の台数を減らす等、来賓の方々の車が駐車できるよう配慮して下さい。
- ⑳委員会内でインカム使用方法の説明会を実施したことで、当日はスムーズな活用ができました。特に、シナリオに変更が発生する場合やトラブル時に受付責任者と会場責任者の情報伝達は重要ですので、インカムの使い方を委員会メンバーに周知して下さい。
- ㉑本年度は乾杯のご発声をシニア会代表世話人、締めのご発声を次年度シニア会代表世話人予定者をお願いしました。次年度以降も継続されて下さい。事前に依頼することでスムーズな運営の一助になると思います。

【福引大抽選会について】

- ⑲本年度の福引チケット収入については、参加人数×2千円で収入を予測し、景品の購入予算を立てましたが、ほぼ予測通りの結果となりました。計画段階の予算のまま景品を購入するのではなく、出欠確認後、参加人数に合わせて予算を修正して下さい。
- ㉒福引チケットの価格については、理事会等の協議のポイントに挙げていただき、十分協議して決定して下さい。2千円は少し高いという声もございましたが、予定金額に近い収入となり、魅力ある景品も準備できました。単価を下げることで収入減も否めませんが、気軽に購入頂ける単価設定も検討して下さい。
- ㉓福引チケット作成の際は、既成のチケット用紙を利用されるとミシン目加工が必要ありませんので、作成労力を軽減できます。登録収支予算計上の際は参考にして下さい。
- ㉔福引抽選会では当選したメンバーが受け取り易いようルールを設けたため、スムーズな進行ができました。当選したメンバーの為に福引抽選会の受け取りルールを設定して下さい。
- 【その他】
- ㉕賀詞交歓会で残った料理は会場で飲食せず、二次会への持ち込み用に利用したため、スムーズに二次会会場へ移動することができました。メンバーの食事は二次会で取って頂くようにして下さい。
- ㉖現役とシニアが交流できる機会をもっと設けて欲しいとのご意見をシニアの諸先輩より賜いました。二次会の開催にあたっては、現役とシニアを同一会場にすることもご検討下さい。

Ⅱ. 事業名 【 総会並びに例会の企画・運営・資料作成並びに議事録の作成・保存 】

1. 事業目的

(対外)

対外向けの例会企画が開催される場合には、ホームページ等で対外に発信し、参加を促すと共に、当LOMの活動を知って頂く。

(対内)

例会に皆が集い、情報交換や交流を行い、メンバー同士が理解し合い共感し合えるような関係構築の一助とし、メンバー一人ひとりがJC活動に邁進して頂くための基礎として頂く。そして例会を通し、気づきや学びを得て、JCの魅力を感じて頂くと共に、自己研鑽の場として頂く。

2. 実施日時・場所

実施日時

総会・例会開催時 19:30～ ※12月度例会18:30～

実施場所・会場

総会・例会会場

株式会社 肥後銀行 天草支店 3階会議室

※12月度例会 プラザホテル アネックス9階 ピア9

3. 参加人員

(外部) 関係諸団体	7名
(内部) 理事・役員	284名
メンバー	227名
その他	12名
合 計	530名

※全て延べ人数にて記載

4. 事業内容

- (1)例会開催場所の(株)肥後銀行様を訪問し、2011年度に向けてのご挨拶と打合せを行い、円満なお付き合いができるようにする。
- (2)例会企画の担当窓口となる事で、各委員会に申込・提出期限の厳守を促し、タイムテーブルの調整を行う。なお、例会企画が開催されない場合は、例会の閉会時間を繰り上げ、居酒屋の青春の開宴時間を早める。
- (3)対外向けの例会企画の開催を各委員会に促すと同時に、対外向けであればホームページに掲載するなどして、対外に発信する。
- (4)例会設営マニュアルを活用した速やかな例会会場の設営を行い、スムーズな例会運営を行う。
- (5)例会運営にあたり、各委員会と連携できるプログラムについては、他の委員会にも例会に携わって頂き、積極的に連携を行っていく。
- (6)メンバーに年間を通してスローガンを意識して頂くため、例会用横断幕に2011年度スローガンを記載する。
- (7)各委員長・副委員長から委員会メンバーへ、例会出席を促す電話連絡を必ずして頂く。
- (8)メンバー間の交流や情報発信、または自己研鑽の場としてスマイルを実施する。
- (9)スマイルの収益金は、「JCI Nothing But Nets マラリア撲滅運動」へ募金する。
- (10)喫煙所清掃担当委員会の告知により、喫煙所清掃の徹底を行う。
- (11)居酒屋の青春の出欠確認を当委員会、開催場所の設定と幹事を例会企画担当委員会が行う。
- (12)例会議事録の作成は、議事録作成人が速やかに作成に入れるよう配慮し、ICレコーダーに保存した記録を3日以内に事務局のパソコンにデータ保存を当委員会担当者が行う。
また、議事録作成人には議事録作成マニュアルを活用し、作成後は期限厳守での提出を行ってもらう(当委員会担当者が進捗状況を管理)。
- (13)例会欠席者が居た場合には、議事録の作成を通して例会の内容を聞いて頂く機会を提供する。
- (14)次回例会時の運営の参考とするために、議事録に経過時間を掲載する。
- (15)例会案内文は例会企画担当委員会が作成し、熱い思いを文章に籠めて頂く。
- (16)例会タイムテーブル変更依頼を前月末日まで、随時受け付ける。
例会のタイムテーブルについては、理事長をはじめ、例会企画担当委員会などの変更依頼に柔軟に対応し、参加しているメンバーが気づきや学びを得て、JCの魅力を感じられるようなものを、より多く発信して頂けるよう例会運営を行う。
- (17)当委員会は勿論のこと、専務理事や各委員長と連携して総会時の委任状についての提出義務の周知徹底を行う。

5. 成果

- (対内的)
- ①例会運営にあたり、組織連携推進委員会（3分間スピーチ）、宝島づくり委員会（拡大推進アワー）、交流委員会（スマイル）にも例会に携わって頂いたことで、各委員会が連携し、例会を情報交換や自己研鑽の場とすることができた。
 - ②全メンバーが一丸となり、皆が集う100%例会を達成することができた。また、それを通して共感し合えるような関係構築の一助とし、気づきや学びと共に、JCの魅力を感じて頂き自己研鑽の場として頂けた。

- ③例会用横断幕に本年度スローガンを記載し、更には理事長挨拶でもスローガンについて触れてもらったことで、メンバー同士が理解し合い共感し合えるような関係構築の一助とすることができた。
- ④スマイルの時間を次第に設けたことで、メンバー間の交流や情報発信、更には自己研鑽の場とすることができた。
- ⑤メンバーが共働して行ったスマイル収益金を「東日本大震災」並びに「JCI Nothing But Nets マラリア撲滅運動」の募金へ繋げることができたことで、JCの魅力を感じて頂くことができた。
- ⑥居酒屋の青春の出欠確認を当委員会、開催場所の設定と幹事を例会企画担当委員会が行うことでスムーズな運営ができた。更には、当委員会と例会企画委員会間交流の一助とできた。
- ⑦例会タイムテーブル変更依頼書を前月末日まで提出頂くことを徹底し、例会タイムテーブル変更があった際にも柔軟に対応することができたことで、より以上の気づきや学びを得て頂き、JCの魅力を感じてもらえる場を設けることができた。
- ⑧例会議事録を期限厳守で作成し、次回例会時に回覧することができたことで、遅刻・早退・欠席者に対してJC活動の基礎である例会の内容を伝えることができた。
- ⑨本年はパワーポイントや映像を使った視覚的要素や、更に東日本大震災発生に伴い、被災地の現状報告を行うなど、臨機応変に例会を運営できたことで、例会を通し、気づきや学びを得て、JCの魅力を感じて頂くと共に、自己研鑽の場として頂くことができた。

6. 引 継 事 項

「総会・例会—準備」

- ①例会会場として(株)肥後銀行3階会議室で計画される場合は、本年度のお礼と次年度の打ち合わせを兼ねて2012年度例会担当委員会並びに執行部で、(株)肥後銀行様へご挨拶にお伺いするようにして下さい。
 - ②例会設営マニュアルを活用した速やかな例会会場の設営を行ったことで、設営不備による開会遅延もなくスムーズな例会運営が行えました。次年度も同様のマニュアルを作成され活用されるようにして下さい。
 - ③例会タイムテーブル作成にあたっては、本年度の例会(総会)議事録に経過時間を記載しておりますので参考にされて下さい。
 - ④本年度より活用している連絡網システムによって、出欠確認の作業負担は劇的に軽減することができました。しかし、返信も手軽になったことにより、安易に欠席の返事をしていることも否定できませんので、欠席予定者へのフォロー(電話連絡など)を徹底されて下さい。
 - ⑤本年においては、総務広報委員会だけでなく執行部や各委員会の委員長・副委員長から電話連絡等で出席を促して頂くことが最も効果的な参加促進方法であったと考えております。次年度も連絡網システムで例会出欠を確認することができますので、各委員会の委員長・副委員長には電話連絡をはじめとする連絡手段を駆使し、委員会メンバーへの参加促進をして頂くようにして下さい。
 - ⑥例会用横断幕に本年度スローガンを記載しています。予算を抑制する為にも横断幕のスローガン部分だけを書替えて再利用されることを御検討下さい。
 - ⑦19時以前であれば事前に(株)肥後銀行様に開錠を依頼しておくことで、開錠費は発生しませんでした。但し、(株)肥後銀行様が不在の場合には総合警備保障へ事前依頼が必要でしたので、例会開催前に(株)肥後銀行様と打ち合わせをされるようにして下さい。
 - ⑧連絡網システムのメール受信ができないメンバーが1名いらっしゃいますが、(株)エムズ様にメール受信ができる為の対策を依頼してありますので、そのメンバーにはメール受信の設定方法を案内するようにして下さい。
 - ⑨本年度は移行期間と位置付け、ファックス案内と連絡網システムを使ったメール案内を併用して例会案内を行って参りましたが、次年度は通信費削減の観点からも連絡網システムのみでの例会案内に一本化されることをご検討下さい。
 - ⑩担当委員会は勿論のこと、専務理事や各委員長と連携して総会時の委任状についての提出義務の周知徹底を行って下さい。⑪
- 本年は例会企画を担当する委員会に例会案内文を作成して頂き、目に見える促進効果は見られなかったものの、メンバーに熱い思いが伝わる例会案内文になっていたように思いますので、次年度も例会案内文の作成については、誰(どの委員会)が作成すれば、最も例会の意義を伝えられるのかを考え、他の委員会に依頼することもご検討下さい。
- ⑫講師に依頼が必要な例会企画を予定する委員会があった場合には、話す内容や時間が予定通りに進むよう、事前リハーサルを徹底させて下さい。
 - ⑬案内が届かないメンバーには、必ず案内が届く方法として、携帯のメール受信設定で@jcamakusa.comを設定して頂く。

- ⑭例会の横断幕が少々いたんでいる模様です、購入か否かを委員会で検討して下さい。
⑮例会企画がスムーズに遂行されるように、担当委員会にはリハーサルの徹底を担当副理事長の責任のもと行って頂くことを例会企画運営重要事項意図して発信して下さい。

【総会・例会—運営】

- ①例会は全メンバーが集う貴重な機会ですので、自分の所属している以外の各委員会が「どのような活動を行っているのか」を知る時間、並びに各委員会が自分たちの活動をメンバーに発信できる時間を設けることを検討して下さい。
②各委員会との調整など大変な部分もありますが、委員会間交流の機会とするべく、できるだけ多くの委員会が例会に携われるようにして下さい。
③喫煙所清掃担当委員会の告知により清掃の徹底ができたので、次年度も担当委員会を設けて下さい。
④例会担当委員会は例会終了後の片付けがあり、居酒屋の青春への出席が遅くなる場合がありますので、居酒屋の青春の開催場所設定と幹事については、例会担当委員会以外の委員会(例会企画担当委員会など)に担当して頂くようにして下さい。
⑤総会案内文中に総会に関する注意事項を記載する等で総会ルールの周知をして下さい。また、総会開始前に、開会にあたっての注意事項を執行部よりマイクで発信して頂いて下さい。

⑥プロジェクター等を活用した運営は良かったと思います。是非次年度でもプロジェクターを活用した運営を行って下さい。

⑦JCIクリード等を唱和するメンバーの立ち居ふるまいに見苦しさを感じさせる場面が見受けられました。1月度総会・例会では新年最初の例会ですので、JCIクリード・JCI MISSION等はどうに行うかわからないメンバーの為にも、経験を積んでいる理事メンバーに見本として行って頂けるよう執行部をお願いして下さい。

⑧1月度例会については、新年度初めての例会ということもあり、各プログラムで運営手法の説明等が発生することは容易に予想できますので、各委員会にタイムテーブル変更依頼書を活用されるよう促され、タイムテーブルに遅れが生じないよう取り組まれて下さい。

⑨今年の12月度例会は忘年会と同日開催に致しましたが、良くも悪くも参加人数に大きな変化はありませんでした。このことで、12月度例会開催の候補日は「例会を単独で開催」、「卒業式と同日開催」、「忘年会と同日開催」の三択になりましたが、次年度が例会で達成したいと考える目的と照合され、最も相応しいと考えられる日時で設定されて下さい。

⑩本年度は例会欠席者の分まで例会資料を準備し、欠席者のレターボックスへ配布しましたが、何か月分も資料が溜まってレターボックスがいっぱいになるメンバーもありました。それ以外の問題点はありませんでしたが、欠席者分の資料を準備するのか、また、配布方法(着払いで郵送など)についてもご検討下さい。

⑪例会内における他委員会の企画内容等を勘案すると、本年は修練に重きをおいた例会スタイルであったと考えます。それは例会の目的と共に各委員会の事業目的に達する為に必要だと判断され、理事会で承認されたものであり、当委員会として否定するものではありませんが、最後は結論に導く企画になっていたかという点に乏しかった感がありますので、次年度は、メンバーが求める例会スタイルと担当委員会が考えられる例会の目的を十分に考慮され、例会内容の取舍選択をされて下さい。

【スマイル】

①スマイルは青年会議所の三信条に基づいたものであると考えますので、修練、奉仕、友情が盛り込まれたスタイルにして下さい。なお、スマイル収益金はその時々で青年会議所でもっとも最善の方法に活用されるべきであると強く思いますので、本年のスタイルも参考にされご検討下さい。また、事業費が必要ないスタイルにし、「スマイル」を事業計画書が無くて、当青年会議所の伝統として継続できる事業にしても良いのではないかと考えます。

②スマイル募金箱を新しく制作しましたので、次年度以降もご活用下さい。

③誕生月・入会月の該当者紹介ポスターを業者に委託したことで、委員会の作業負担軽減に加え、見やすく目立つポスターとなった為、多くのメンバーに周知する事ができましたので、次年度も業者へ委託されることをご検討下さい。

④スマイルに該当するメンバーが、発表直前に例会自体を早退または欠席という月も多々ありました。次年度は、このような事が無いようスマイルの趣旨説明の機会や参加推進に繋がる魅力あるスマイルをご検討下さい。

⑤本年は従来の一〇一〇〇〇円という設定もなくし、スマイル収益金を「募金」という扱いにしてスマイルを運営しました。そのことは、大変有意義な活動になったと考えていますが、スマイル収益金については、色々な捉え方ができますので、金額設定や景品の有無、収益金の用途については十分ご検討下さい。

⑥スマイル発表者の中に長時間話すメンバーもあり、タイムテーブルに支障をきたし兼ねない状況が見受けられましたので「一〇何分以内」等の時間を決められることをご検討下さい。

Ⅲ. 事業名【 LOM内広報誌 百万一心 ～共感、そして共働～ 】

1. 事業目的

(対内)

JCに入会した当時に各々が抱いていた目的を達成するためには自ら参加することが大切であることを感じて頂く。そして、JC活動に関わることの素晴らしさを知って頂き、メンバーのJC活動参加促進に繋がると共にコミュニケーションの一助として頂く。

2. 実施日時・場所

実施日時

偶数月の例会(総会)時に配布

実施場所・会場

例会(総会)会場

3. 参加人員

(内部) 理事・役員	28名
メンバー	46名
合 計	74名

4. 事業内容

(1) 会員数の約3割を入会3年未満のアカデミーメンバーが占める現状を踏まえ、当LOMが実施してきた過去の事業などを紹介する。

(2) 理事長の連載コーナーを設け、広報誌を通じてメンバーに伝えたい理事長の思いを発信する。

(3) 制作工程ごとに担当者を決め、委員会メンバー全員が広報誌の作成に責任もって携わるようにする。

・取材・撮影班 … 班長:長山直仁 メンバー全員

・画像収集整理班… 班長:井上雅之 堀川勝功

・デザイン制作班… 班長:吉田篤司 瀬崎公介

・文字原稿編集班… 班長:柴田渉 勝木洋、鉦落良紀、川上憲吉、前田知洋

・最終校正 … 委員会メンバー全員

・印刷班 … 班長:平井太宗 長井正行

(4) 事業後に、参加メンバーから参加したこと得た、気づきや学び、達成感などの感想をいただき掲載する。

(5) メンバー間におけるコミュニケーションの一助とするべく、メンバーやOBを紹介する記事を掲載する。

(6) 事業の意図をより明確に伝えるための取材と制作ができるよう、事業を実施する担当委員会と事前の打ち合わせを行い、事業の取材してほしいポイントを確認しておく。

(7) 委員会メンバーが取材参加出来ない場合は、事前に取材・撮影班から参加されるメンバーへ依頼し、取材してほしいポイントをお伝えして、取材漏れがないようにする。尚、その際の画像データについては、画像収集整理班が収集を行う。

(8) 隔月で発行し、読んでいただくメンバーにJC活動に関わることの素晴らしさを知って 頂けると共に、メンバーのJC活動参加促進とコミュニケーションの一助となる内容の濃い広報誌作りを行う。

(9) 卒業式等の写真素材を確保するために、卒業生を積極的に撮影する。更に、抽出作業を容易に行うために、卒業生毎のフォルダを作成し、管理する。

(10) 広報誌を通じて、各事業の魅力や雰囲気、そして共に活動しているメンバーの情報など、LOM内外での出来事を情報発信していく。

5. 成果

(対内的)

① 広報誌を介して、メンバー同士で談笑する光景が多く見られ、コミュニケーションの一助を担うことができた。

- ②当LOMの全事業を記事にできたこと、事業風景を両面カラーで多く掲載したことによって、事業に参加できなかったメンバーにも事業の雰囲気や「事業へ行けなくて残念だった」という旨の言葉を頂くこともでき、JC活動に関わることの素晴らしさと自ら参加することの大切さを感じて頂くことができました。
- ③当会議所がこれまでに実施してきた青少年健全育成事業や過去に達成した100%例会の紹介などを「天本の歴史探訪」と称して掲載したことで、アカデミーメンバーが掲載した事業について質問をしている姿が見受けられるなど、JC活動の歴史に興味をもつ機会を提供することができ、さらに自らがJC活動に参加することの大切さを伝えることができました。
- ④LOM事業以外のブロックや地区事業なども積極的に取材し、出向しているメンバーの活動も多く記事として掲載したことで、地区やブロックで頑張っているメンバーの姿を伝えることができ、JC活動に関わることの素晴らしさを伝えると共にメンバー間のコミュニケーションの一助とすることができました。
- ⑤理事長コラムを連載し、メンバーに伝えたい理事長の思いを定期的に発信したことで、理事長を身近に感じてもらう機会を提供することができ、そのことが理事長とメンバー間のコミュニケーションの一助となり、さらには、当LOMの課題やJC活動に参加することの素晴らしさを知って頂く機会とできました。
- ⑥事業を終えた参加メンバーより、事業から得た気づきや学び・達成感などの感想を頂き掲載したことで、参加できなかったメンバーにも事業に興味を持ってもらい、その後の事業参加へ繋げる一助とできました。

6. 引 継 事 項

- ①本年度は両面カラーにしたことで、事業の魅力が伝わり易い誌面作りができるというメリットが出ましたが、コスト高になるというデメリットも生じたので、次年度の誌面構成や発行回数によっては、費用対効果を十分考慮され表面カラー／裏面モノクロについてもご検討下さい。
- ②本年広報誌は、表面にはより多くの事業記事を掲載し、裏面では過去の事業紹介・理事長コラムといった企画記事に主体をおいた例年に無いスタイルで隔月発行し、内容の充実は図れたものの、素材の取捨作業に手間取る部分や一つ一つの事業をより詳細に記事にする点において課題が残りましたので、各事業をより詳細に記事掲載したい場合には、毎月発行もご検討下さい。
- ③役割分担を明確にすることで円滑な広報誌作成が行えます。しかし、本年度は委員会出席メンバーで随時役割分担をしたことで、作成に携わるメンバーが固定化されてしまい委員会全メンバーが作成に携わることができませんでした。次年度は委員会に欠席したメンバーにも広報誌作成に携われるよう工夫して下さい。
- ④例会時に記事の掲載内容を紹介する時間を設けるなど、広報誌の内容に興味を持って頂けるような工夫を検討して下さい。
- ⑤卒業式などで必要な画像データを探し易いよう、卒業生用のフォルダを作成し、卒業生毎に管理して下さい。なお、本年度はフォルダへの振り分け作業をまとめて行った為、大変な労力を要しました。フォルダへの振り分け作業は各事業後に随時行うようにして下さい。
- ⑥より良い広報誌とするために、広報誌の効果について検証できるよう、アンケートなどでメンバーからのフィードバックができるようにして下さい。
- ⑦当委員会メンバーが参加できない事業があった場合には、他の参加メンバーに依頼し、取材して頂いたことで、円滑な取材活動を行えました。担当委員会メンバーが参加できない事業の際には、参加メンバーを確認の上、事前に取材を依頼されるようにして下さい。
- ⑧依頼分も含め、取材した画像素材については、提出方法・期限を明確(事業後〇〇日以内に事務局PCの〇〇フォルダに提出など)にし、円滑な運営の一助とされて下さい。また、本年広報誌のデータにつきましては、「2011年度LOM内広報誌2月号から12月号」というタイトルを貼り、DVDとUSBメモリに保存しております。また、その元データを外付けハードデスクLOM内広報誌フォルダに保存しております。
- ⑨過去の事業紹介記事やOBの紹介記事が好評でしたので、本年度と違う企画でも良いので、次年度は更に良い記事になるよう企画を検討して下さい。
- ⑩本年度は作成ソフトとしてイラストレーターを利用しましたが、使用経験がないと使い難いソフトでもありますので、一般的なパソコン知識があれば使用できるエクセルなどを使って作成されることもご検討下さい。多くのメンバーが広報誌作成に携われると思います。
- ⑪隔月発行にされる際には、夏場などの事業数が集中する時期には掲載記事が多くなることが予想されますので、掲載ボリュームを多くしたい場合には、号外発行もできるような事業計画(予算計画)にされて下さい。

1. 事業目的

(対外)

当青年会議所の熱い思いや活動、そして魅力をより知っていただく事で、対外的認知度の向上を図ると共に、活動への理解・共感を深め、地域を巻き込んだ共働の実現へステップアップする一助とする。更には、当会議所に入会するきっかけとしていただく。

(対内)

メンバー間での情報の共有化を図ると共に、各委員会が対内外へ情報発信をするツールとして活用していただく。また、コミュニケーションツールとしても利用し、メンバー間の交流の場としていただく。

2. 実施日時・場所

実施日時
通年

実施場所・会場
社団法人 天草本渡青年会議所ホームページ上

3. 参加人員

(外部) WEB対象者	不特定多数名
(内部) 理事・役員	28名
メンバー	46名
その他	1名
合計	75名+WEB対象者

4. 事業内容

(1)各事業等の取材活動・更新を随時行い、また各委員会に事業毎の一番伝えたい情報を提供してもらうことで、全メンバーの広報意識の向上を図る。

(2)対外向けページでは動画や画像を積極的にアップし、主に事業の告知や活動報告を、より分かり易く公開・発信することで、当青年会議所の対外的認知度の向上に繋げる。

(3)ツイッターを利用し、各メンバーが発信したい言葉やJC活動の近況・参加した事業の感想・事業後のお礼等を書き込んで頂く。

(4)委員会スケジュールは各委員会でホームページにアップして頂く。

(5)委員会スケジュールの更新方法は当委員会よりレクチャーする。

(6)容量の大きいサーバーに変更し、対内外に発信できる情報を増やす。

(7)メンバーの作業負担を軽減できるプログラムを導入し、より多くの情報を発信できるように

(8)対外配布資料には、当LOMのURLを積極的に記載する。

(9)例会及び各事業の出席率を向上させるため、また、出欠確認作業の効率化を図るために連絡網システムを導入する。それに伴い、従来以上に確実な情報発信と出欠返信を行って頂く。

(10)ホームページ上の連絡網システムを活用し、執行部には全メンバーの出欠状況を、各委員長には委員会メンバーの出欠状況を把握していただき、例会及び各事業の参加促進に努めて頂く。

5. 成果

(対外的)

①対外向けページにて事業の様子が伝わるよう多くの画像や動画をアップし、「天草ハイヤ」、「サッカー」といったWEB検索に掛かり易いキーワードを動画や画像に入れるなどのSEO対策を行ったことで、青年会議所に所縁のない多くの方々にも閲覧していただき、興味を持っていただくことができた。更には、当青年会議所の熱い思いや魅力の詰まった事業の様子をより多くの人に閲覧していただけたことで、対外的な認知度を向上さ

- ②当LOMの実施した全事業をホームページに掲載したことにより、当LOMの活動、そして魅力を知っていただくことができた。過去のホームページを閲覧できない為、前年度のカウンター数は不明確(当委員会の記憶するところは約6,700回または8,700回)であるが、本年11月24日時点での閲覧回数11,106回(34回/日)は明らかに閲覧数の向上が視え、当青年会議所の認知度向上に繋げることができた。
- ③青少年健全育成事業において、当LOMホームページ上のモバイル対応ブログを活用したことで、保護者や関係各位へのリアルタイムな情報発信を行え、対内外への情報発信ツール並びにコミュニケーションツールとすることができた。
- ④ホームページ上で復興支援活動の告知を行ったことで、その活動に地域の方々に理解・共感をしてもらい、告知を見た人に支援物資を持参していただくことができ、地域を巻き込んだ共働の実現へと繋げるステップアップの一助とすることができた。
- ⑤各委員会が事業告知手段としてホームページを積極的に活用していただいたことで、当青年会議所の活動や魅力を知っていただき、更には見ていただいた地域の方に事業に参加してもらうことができた。
- ⑥事業計画並びに報告を掲載し、当青年会議所の熱い思いや活動、魅力を発信したことで、活動への理解・共感を深め、会員拡大の一助とすることができた。

(対内的)

- ①連絡網システムをはじめとする会員専用ページのリニューアルを行い、更には直感的に解るような操作性の向上とサーバーの容量を大幅に拡充したことによって、より多くの情報をメンバーに発信することが可能となり、従来のファイルデータのみならずボイスデータや出欠情報に至るまで情報の共有化を図れ、更には情報発信ツールとして活用することができた。
- ②連絡網システムを導入したことにより、出欠確認作業の効率化と出欠返信率の向上につながり、情報発信ツール並びに情報共有ツールとして活用することができた。
- ③執行部並びに各委員会が随時行動カレンダーを更新したことで、当LOMに関係する行事の把握が容易となり、情報の共有化を図ることができた。

6. 引 継 事 項

- ①対外向けのページで動画や画像を積極的に利用したことで閲覧者を増やすことができました。次年度も画像や動画を活用して、視覚的に伝わるようなホームページ制作に努めて下さい。
- ②各事業の事業報告を掲載する際には、事業に対する思いが一番強いであろう事業担当委員会から掲載してほしい画像素材の選定及び情報(コメントなど)提供を受けるようにして下さい。また、ホームページ掲載後は例会の事業報告時やスマイルでのお礼時に「詳細はホームページをご覧ください」と一声運動をするなど、ホームページ閲覧促進に繋がるような工夫をご検討下さい。
- ③本年度はLOM内の全事業をホームページで紹介し、画像や動画を多く用いる工夫で閲覧を多くすることができましたが、掲載している画像の詳細な情報発信には至りませんでした。次年度は事業へ参加した人の感じたことなどを同時掲載し、その場の空気感・臨場感さらには感動を伝えることができる記事掲載もご検討下さい。
- ④コミュニケーションツールとしてのツイッターなどの活用を試みましたが活用方法の周知徹底ができませんでしたので、利用する場合は使用方法のフォローまで計画して下さい。また、より多くのメンバーに双方向・共有の習慣を定着させるため、ひと月毎にツイッター・掲示板・ブログのやり取り内容など、簡単な公開の場を例会内で設けることもご検討下さい。(面白かったエピソードを紹介するなど)
- ⑤委員会スケジュールは各委員会でホームページにアップしていただくようにして下さい。但し、更新方法については、ホームページ担当委員会よりレクチャーを行うなどの計画を行って下さい。その際更新方法などの指導に専門業者への委託などの計画をご検討下さい。
- ⑥本年度に引き続き、対外配布資料には当LOMホームページのURLを記載するようして下さい。
- ⑦連絡網システムはユーザー名とパスワードさえ分かれば、ホームページより誰でも出欠状況を確認することができることを、特に各委員長・副委員長に周知していただき参加促進ツールとして最大限活用するようして下さい。なお、連絡網システムを導入したことで容易に返信ができ便利な反面、安易な欠席返信もあるように感じますので、欠席返信者並びに未回答者には必ず電話連絡を入れるよう併せて周知して下さい。
- ⑧本年度はホームページをきっかけに入会していただいた実績もありますので、会員拡大担当委員会と連携し、会員拡大ツールとしてのホームページ活用をご検討下さい。

⑨運営管理やセキュリティー管理及び画像処理といった作業に専門知識を要するため、株式会社エムズ様に委託することにより、スムーズな運営管理ができましたが、次年度は費用対効果を考慮した上で、セキュリティー管理やホームページの更新作業等含め、何を委員会が行い、何を委託するのか再度ご検討下さい。

⑩ホームページの事業報告更新については、画像素材と記事コメントだけを担当委員会メンバーで用意し更新作業は完全に業者委託するか、専門知識の無いメンバーでも更新できるようなシステムにすることで、より多くのメンバーが更新作業に携われるようになりますので、事業後の随時更新ができるよう取り組み、委員会内の役割分担を明確にして下さい。

⑪本年度は、連絡網システム等の新プログラムを導入し出欠確認等の作業効率を飛躍的に向上させることができましたが、出欠確認名簿と連絡網システムの出欠確認表の名簿順が一致していなかったため、出欠表への転記に労力がかかりました。費用が掛からないことが前提ですが、出欠確認名簿と整合性を持たせられるようにシステムの更新を業者様へ依頼して下さい。

⑫今年の連絡網システムでは返信内容に制限があり、案内内容に返信の項目が添っていないケースがありましたので、更新する際には、フリーワードが入力できる欄を設ける、または返信項目を変更できるようにする等、費用対効果を考慮の上ご検討下さい。

⑬本年度は事業報告閲覧の際トップページからツークリックしてからでないと各事業報告閲覧に移れませんが、より魅力的なホームページとなるよう実施直前及び直後についてはトップページ上から、ワンクリックで事業の画像やコメントを閲覧できるようにホームページを作成して下さい。

⑭連絡網システムのメールを受信できないメンバーが受信できるよう、株式会社エムズ様に対策を依頼してありますので、次年度の連絡網システムの運用開始に合わせて受信設定の周知をして下さい。

⑮ホームページをより多くの方に見ていただき、当青年会議所の活動を知っていただくために、画像をアップする際には画像名にキーワードを入れ、YOUTUBEに動画をアップする際には、その事業に含まれる内容の中で青年会議所に興味がない方でも検索されるキーワードをタイトルに使用するなどのSEO対策をして下さい。

⑯ホームページのリニューアルについては、費用対効果を熟考していただき、慎重に行われて下さい。基本的な項目や機能は継承し、マイナーチェンジ程度に次年度のカラーを添加することで、費用抑制が可能だと考えます。

⑰本年は当委員会からの周知もあり、ホームページ機能(連絡網システムや資料アップダウンページ等)活用についての運営上の問題点はなかったが、より多くのメンバーが活用できるようなシステムの使用方法等を盛り込んだ活用マニュアルの作成をご検討下さい。なお、担当委員会では作成が困難かと思われますので、マニュアルの作成に関しては、委託業者へ依頼されることを推奨いたします。

⑱本年が初の運用ということもあり、連絡網システムの使用方法について詳細なルールやマナーなどの取り決めが無く、不適切な使用を防ぐためにも画面上にルール順守を促すメッセージを表示するなどの規制の手法を取り入れて下さい。

V. 事業名【 会員拡大推進 】

1. 事業目的

天草の明るい豊かな社会の実現のため、また、会の存続のために会員拡大を行う。創立50周年時には会員数100名を目指す。

2. 参加人員

(内部) 理事・役員 3名

メンバー 7名

合 計 10名

3. 事業内容

(1) 宝島づくり委員会が掲げる新入会員20名を達成する為、委員会メンバーが一丸となって、3名以上の会員拡大を目指す。

4. 成 果

(1)目標3名に対して、入会者数1名

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	10月4日	ビーフヤヒロ	年間事業計画について 新年賀詞交歓会について	9名	3名	75%
2	10月21日	J C会館	年間事業計画について 新年賀詞交歓会について	5名	7名	42%
3	10月29日	J C会館	事業計画について	7名	5名	58%
4	11月19日	J C会館	事業計画について	6名	6名	50%
5	11月29日	J C会館	新年賀詞交歓会について	6名	6名	50%
6	12月13日	J C会館	新年賀詞交歓会について	9名	3名	75%
7	12月17日	J C会館	新年賀詞交歓会について	6名	6名	50%
8	12月27日	J C会館	新年賀詞交歓会について	5名	7名	42%
9	1月5日	J C会館	新年賀詞交歓会について	4名	6名	40%
10	1月8日	J C会館	新年賀詞交歓会について	5名	5名	50%
11	1月13日	天草シーサイドホテル	新年賀詞交歓会について	6名	4名	60%
12	1月16日	J C会館	新年賀詞交歓会について	8名	2名	80%
13	1月24日	J C会館	例会・総会について ホームページについて	5名	5名	50%
14	2月7日	J C会館	2月度例会について ホームページについて LOM内広報誌について	4名	6名	40%
15	2月14日	J C会館	2月度例会について ホームページについて LOM内広報誌について	7名	3名	70%
16	3月8日	J C会館	3月度例会について ホームページについて	5名	5名	50%
17	3月14日	J C会館	3月度例会について ホームページについて	4名	6名	40%
18	4月12日	J C会館	4月度例会について ホームページについて LOM内広報誌について	4名	6名	40%
19	5月10日	J C会館	5月度例会について ホームページについて	5名	5名	50%
20	6月10日	J C会館	6月度例会について ホームページについて LOM内広報誌について	6名	4名	60%
21	7月8日	J C会館	通常総会並びに7月度例会について ホームページについて	5名	5名	50%
22	7月19日	J C会館	通常総会並びに7月度例会について ホームページについて	3名	7名	30%
23	8月12日	J C会館	通常総会並びに8月度例会について ホームページについて LOM内広報誌について	5名	5名	50%

24	8月22日	J C会館	通常総会並びに8月度例会について ホームページについて LOM内広報誌について	6名	4名	60%
25	9月8日	J C会館	9月度例会について ホームページについて	5名	5名	50%
26	9月12日	J C会館	9月度例会について ホームページについて	5名	5名	50%
27	10月6日	J C会館	10月度例会について ホームページについて LOM内広報誌について	5名	5名	50%
28	10月13日	J C会館	10月度例会について ホームページについて LOM内広報誌について	4名	6名	40%
29	11月10日	J C会館	11月度例会について ホームページについて	4名	6名	40%
30	11月24日	J C会館	12月度例会について ホームページについて LOM内広報誌について 事業報告書について	5名	5名	50%
31	11月30日	J C会館	12月度例会について ホームページについて LOM内広報誌について 事業報告書について	5名	5名	50%
32	12月6日	J C会館	事業報告書について ホームページについて	4名	6名	40%

委員長所見

新年賀詞交歓会を除いた全てが通年事業ということもあり、瞬く間に一年が過ぎてしまいました。一年を振り返って見ると、昨年度の段階で全ての事業計画書を審議承認して頂かなければならず、毎日が議案書と睨めっこの日々でスタートしました。そして、2011年度に入っても、2週間で最初の全体事業である新年賀詞交歓会、また、その10日後には総会、更に2週間後には例会&LOM内広報誌発行(ちなみにホームページの更新も)と総務広報委員会メンバーには自分の仕事に手が付けられないほど多忙な日々を過ごさせてしまいました。しかしながら、そのような当委員会の事情も踏まえ、委員会開催時には出来るだけ短時間で効率よく、円滑な委員会運営を心がけ取り組んで参りました。そして、委員会メンバーの協力のおかげで、集中した委員会を実施することができ、そのほとんどを1時間30分以内に予定した内容を終えたことは、仕事が多忙なメンバーにも積極的にJCへ関わることができる為の一助となったのではないかと考えています。また、シニアクラブの先輩方をはじめ県内全LOMより参加いただいた新年賀詞交歓会では、おもてなしや交流と共に本年度体制のお披露目といった目的に向かって頑張り、ホームページや広報誌による情報発信では、写真や動画を多用し当青年会議所の活動や魅力をより視覚的に伝えることの工夫、そして、情報共有については、インターネットを活用したツールの充実、連絡網システム導入をはじめとする会員専用ページ再構築。さらに、例会については事業映像上映やスライドを利用した進行の試みといった、新しいことへチャレンジすることも学ぶことができたのではないかと思います。

そのように、当青年会議所の基礎となる例会や情報発信・情報共有を司る総務広報という立ち位置だったことで、各委員会との連携をはじめとする、LOMの全事業に関わり合いを持てたことは、私に大変多くの気づきと学びを与えてくれました。このような職を与えてくださいました森理事長には心より感謝申し上げます。また、森理事長には当委員会の目的達成のために新年賀詞交歓会での来賓用メッセージに始まり、LOM内広報誌のコラム等、他ならぬご尽力を頂きましたことに重ねて御礼申し上げます。

卒業の年に委員長を仰せつかり、身に余る思いでしたが、船島専務理事をはじめ、両副委員長、運営幹事、会計幹事の全面的なバックアップと当委員会メンバーが積極的に参画して頂いたおかげで、各委員長には及ばないながらも何とか委員長職を全うすることができ、当青年会議所在籍中に100%例会も達成することができましたことは、私の人生においても思い出深い経験となりました。このような経験をさせていただきました皆様に心より感謝申し上げます。一年間本当にありがとうございました。

担当専務理事所見

本年の総務広報委員会は、新年賀詞交歓会に始まり、例会の運営と広報活動といった多くの通年事業に、当青年会議所の潤滑油となるべく取り組んでこられました。2011年度最初の事業となった新年賀詞交歓会においては、例年になく創意工夫を凝らした演出でおもてなしと交流が出来たことは、新年最初の事業として大変素晴らしいものであったと思います。例会の運営に関しても、近年低迷している出席率を少しでも引き上げるために、時間内に終了する運営に心掛け、思考を凝らした進行にも常に取り組んでこられた姿勢が、100%例会達成にも繋がったのではないかと思います。全ての事業において円滑に運営出来たのは、理事長が掲げられた所信・基本方針・運営方針を常に念頭に置き、委員会として掲げた活動方針・運営方針を一年間通して遵守した事業構築・委員会活動・運営を实践されたことが、委員会メンバーの積極的な参画に繋がったのではないかと思います。委員長は本年でご卒業を迎えられますが、次年度以降にも在籍されるメンバーにとっては大変貴重な財産となったのではないかと思います。

2011年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名：事務局
- 担当専務理事名：船島健嗣
- 事務局長氏名：荒木泰匡
- 事務局次長氏名：吉永陽三・金子友理子
- 委員氏名：飯田昌史・菅原秀仁

I. 事業名【機関誌あしなみの発行】

1. 事業目的

(対外)

理事長所信に始まる2011年度の地域発展へ向けた思いを発信し、青年会議所活動への理解を深めてもらう。また、各委員会の取組み・事業報告等を発信することで、活動をより多くの人に周知し、地域発展への一歩へとつなげる。

(対内)

理事長所信に始まる2011年度のメンバーへ向けた思いを発信し、活動の理念を知って頂く。また、各委員会・出向関係の取組み等が発信することで、相互の委員会情報の理解・出向先の活動への理解につなげる。さらに新入会員拡大のツールとしても利用する。

2. 実施日時・場所

実施日時【No.167】2011年4月発行【No.168】2011年10月発行

実施場所【No.167】 郵送：一般・OB
手配り：天草市役所(9支所を含む)・メンバー職場
メンバー：4月例会会場にて配布
【No.168】 郵送：一般・OB
手配り：天草市役所(9支所を含む)・メンバー職場
メンバー：10月例会会場にて配布

3. 参加人員

(外部) シニアクラブ	1名
天草ユナイテッドチルドレン	2名
(内部) 理事・役員	28名
メンバー	46名
合 計	77名

4. 事業内容

- (1) 関係諸団体の新年度体制が決まる4月に2011年度の取組みの発信を行い、2011年度が終わりに近づく10月に事業成果の報告を行うために年2回発行する。
- (2) 会員拡大時に利用するツールとして、宝島づくり委員会と協力し、入会案内とペアで配布する。対外事業開催時に受付で配布するなど有効活用して頂くと共に、活用の用途・期
- (3) あしなみをホームページにアップし、誰でも手にできる環境を作る。
- (4) メンバーの店舗にあしなみ設置を依頼し、残数を確認する。
- (5) 新入会員に、入会経緯・入会しての目標などをインタビュー形式で行う。

【あしなみNo.167】

(1) 理事長・委員長の抱負を掲載し、2011年度の理事長所信に始まる当青年会議所の地域発展に向けた思いやメンバーへ向けた思いを発信する。

- (2) 日本・地区・ブロックにおける出向者の本年の抱負や出向先の事業紹介、活動内容をPRして頂く。
- (3) シニアと現役メンバーとの本年の交流の在り方やシニアクラブの活動内容を発信する。
- (4) 各委員会事業への参画・参加募集の告知を行う。
- (5) 天草UCの紹介や本年の取り組みについてPRして頂き、さらに会員募集の告知を行う。

【あしなみN○168】

- (1) 理事長に一年間を振り返り、地域やメンバーへの思いと共に1年間の活動報告を行って頂く。
- (2) 167号掲載記事に合わせて、各委員会事業の成果を中心に1年間の活動の報告を行う。事務局メンバーが各委員会に訪問し、効果的な委員会報告ページ枠のレイアウトを打ち合わせた後、作成に入る。
- (3) 卒業生に、これまでのJC活動を振り返って頂き、メンバーに向けた思いを発信して頂く。
- (4) 次年度のスムーズな活動に繋がるよう、新年度体制の情報発信を行う。

5. 成 果

(対外的)

- ①「天草十二万人の共働へ」というテーマの元、地域への思い・日本復興への青年会議所としての方向性を発信して頂いたことで、青年会議所活動への理解を深めてもらうことができた。
- ②2月に開催した事業を167号に掲載するなど内容のボリュームアップを図ると共に、168号では一年を通しての活動を、目で見て分り易い年表と写真を使い構成し、167号掲載記事に合わせた一年間の報告を行ったことで活動をより多くの人に周知することができた。

(対内的)

- ①理事長所信からメンバーへ向けた思いと事業に対する姿勢や、卒業生からJCでの経験や学びをそれぞれの視点から伝えて頂いたことで、活動の理念を知って頂く事につながった。
- ②各委員会メンバーに記事作成に携わって頂き、委員会ページを作成できたことで、相互の委員会活動への理解を深めることにつながった。
- ③シニアクラブ・出向記事掲載を企画したことで、出向先の活動への理解や、シニアクラブを身近に感じることに繋げることができた。
- ④新入会員ページでは、青年会議所のイメージが一般の方へも伝わりやすくお伝えできる内容となり、拡大用ツールとしても利用することができた。

6. 引 継 事 項

- ①あしなみは会員拡大ツールとしても非常に役に立ちます。会員拡大のしおりと一緒に事業ごとに参加者に配布することは、青年会議所をより理解してもらうことができますので、次年度以降も事業や活動に関わった方への追加発送等をご検討下さい。
- ②会員拡大ツールとして事業での配布を計画される際は、拡大担当委員会とお互いに確認を取合ったり、定期的に使用枚数を確認するなどコミュニケーションを取り、配布忘れが無いように注意して下さい。
- ③あしなみは通年を通してホームページからダウンロードできるような形が良いと思います。当該年度の作成に至るまでは前年度分を掲載するといった形で、誰でもいつでもみることができることをご検討下さい。また、あしなみ完成版を頂く時に、製作会社よりデータも一緒に頂くように依頼されると、ホームページへのアップがスムーズです。
- ④今年は市役所・支所をメインに对外設置場所を計画しましたが、お願いする際に設置場所の確認まで取れず、設置状況を確認できませんでした。可能であれば、設置場所にメンバーの手で設置させて頂き、後日期間を決めて確認を行うといった方法もご検討下さい。
- ⑤メンバーの店舗へ設置を依頼するときは、事前に期間を決めて残数を確認することをお伝えし、人目につく場所への設置や回覧のお願いをしっかりと伝えて下さい。
- ⑥掲載内容について、委員会事業への参加募集告知は、活動をお知らせするのに効果的ですが、あしなみ発行時期と事業審議時期のずれもあり、掲載が困難な可能性もありますのでご注意下さい。

- ⑦予備の掲載企画を多く準備しておいたことで、予定に変更が起きても掲載内容にも困らず、予定通り発行を行うことができました。委員会メンバーのアイデアを活かし、予備企画を準備されることをお勧めします。
- ⑧用途・配布期間を考え、4月・10月の発行部数を調整したことで、無駄を少なく活用することができました。拡大ツールとしての利用数や事業参加者への配布先追加など、その年の計画を考慮し、発行部数をご検討下さい。
- ⑨当委員会より担当者を決め、各原稿作成者とコミュニケーションを取れたことで、スムーズに原稿を提出して頂く事ができました。コミュニケーションを取りやすい委員会担当者を配置するなど検討されると、スムーズな原稿回収につながります。また、製作会社への定期的な連絡・確定した原稿から早めにやり取りを行うと、よりスムーズです。
- ⑩今年は特に日本・地区・ブロックすべてに出向者が出ており、活動紹介や活動報告を行ったことで、LOMの枠を超えた活動を地域やメンバーに発信することができました。出向状況に合わせて掲載内容のボリュームを検討すると、その年の良いアピールにもなりますので、ご検討下さい。
- ⑪新入会員ページのインタビューは、内容すべてを掲載はしませんでした。新入会員が答えやすい質問も織り交ぜインタビューを行ったことで、入会前と入会後のイメージや青年会議所を身近に感じてもらうことが出来るページとなりました。会員拡大にも有効利用できると思います。
- ⑫天草ユナイテッドチルドレンの取り組みについてページを設けましたが、対外に広く発信することに活用出来ませんでした。天草ユナイテッドチルドレン本体が活動を行わないと、メンバーの拡大等への活用も難しいと思われるので、よく協議の上計画を行ってください。
- ⑬配布リストについて、審議以降も団体の役職者や住所等に変更があります。各号の発送前に最新の情報を再度確認されて下さい。また、特にシニアには手配り可能な方もいらっしゃいます。発行時期がずれない範囲で、予算計上の際に参考にされると発送に掛かる予算を抑えられます。
- ⑭委員会資料印刷代について、実際に委員会時には紙資料を使う部分と使わずに電子資料で行える部分があり、用紙と印刷代を予想以上に使用せずに済むと思われます。次年度以降、委員会資料の用紙代・印刷代の計上についてご検討下さい。
- ⑮あしなみの発行時期について、新年度に新体制を迎える配布リスト先が多かったことと、事業がほぼ終わり、青年会議所の次年度体制が決まる時期を考え、本年は4月と10月に発行を行いました。年明けすぐに、その年の対外発信を行ってはどうか、という意見もありましたので、目的に合わせてご検討下さい。
- ⑯あしなみの発送について、メール便を活用しました。料金も低価格に抑えられ、業者にお尋ねしたところ、郵送と同じく届かないということは無いとのお返事でしたので、発送については今後もメール便の活用をお勧めします。

II. 事業名【 リニューアル名刺 】

1. 事業目的

(対内)

天草の魅力や当会議所が取り組む活動を広く対外に発信できる内容と共に、コミュニケーションツールとしてもメンバー一人ひとりが有効活用できる公益的な新しい名刺の方向性を示すことを目的とする。

2. 実施日時・場所

実施日時 平成23年4・5・9月度 例会時 4月度 10分間 5・9月度 5分間

実施場所 4・5・6月度例会会場【株式会社肥後銀行 天草支店 3階会議室】

3. 参加人員

(内部) 理事・役員	28名
メンバー	46名
合 計	74名

4. 事業内容

(1) 地域発展やコミュニケーションツールとしての活用を今以上のものとなるように、将来的に公益性のある名刺の作成のために構想を行う。

(2) 4月度例会にて公益性のある名刺づくりの必要性を発信する。

(3) 第1回アンケートで地域情報が掲載された他LOM・関係諸団体の名刺と、天草における地域情報が掲載されたコミュニケーションツールを集め、記入の際の参考にしていただき、さらに天草を広く発信できる掲載素材、名刺の有効活用に繋がる要素、青年会議所活動の掲載・創立50周年情報の掲載の有無についての意見を集める。

下記:コミュニケーションツールリンク

http://www.city.amakusa.kumamoto.jp/shigen_flash/takarajima.html

(4) 第1回アンケート結果を基に第2回アンケートを作成し、5月度例会にてさらに具体的な掲載内容についての意見を集める。

(5) 第2回アンケート結果を基に当委員会にて作成したレイアウト(案)に、名刺形状に合わせた参考金額を添付し、6月度例会にて回覧する。

(6) アンケート結果を基にレイアウトの調整を行い、また掲載につながらなかった意見についてもまとめておき、2012年度名刺レイアウト(案)を次年度執行部と打ち合わせを行う。

(7) 事業報告で2012年度名刺レイアウト(案)とアンケート結果を報告し、次年度以降の名刺作成時の参考材料としていただく。

5. 成果

(対内的)

天草を広く発信しやすい掲載素材や名刺の有効活用に繋がる要素をメンバー各々から集約することができたことで、コミュニケーションツールとしても有効活用できる、公益的な新しい名刺の方向性について示すことができた。

6. 引継事項

① 一年間、将来的な名刺の構想について取り組み、次年度執行部の意向も踏まえレイアウト作成を行いましたので、次年度作成の際は前向きに検討してください。

② ヒアリングで意見集約が出来ないメンバーには、今回の事業目的と一緒に、実施したアンケート結果・レイアウトについてデータをお渡しし、確認してもらいました。電子資料などを活用した意見集約なども併用し、一人でも多くのメンバーから意見集約出来るようにして下さい。

③ メンバー回覧用の資料においては、アンケートの集約結果によって様々な意見が出ることを予測して、予算計上を行って下さい。

④ 予算計画時には、計上ミスが出ないように金額の再確認を行って下さい。

⑤ 委員会資料印刷代について、実際に委員会時には紙資料を使う部分と使わずに電子資料で行える部分があり、用紙と印刷代を予想以上に使用せず済むと思われます。次年度以降、委員会資料の用紙代・印刷代の計上についてご検討下さい。

⑥ 今年の取り組みからメンバーの意見が反映された名刺を次年度利用して頂けます。実際に使ってみて天草の魅力を発信できたか、当会議所が取り組む活動を発信できたか、コミュニケーションツールとして有効活用できたか等を、1年間の終わりにアンケート・ヒアリングなどで検証を行って下さい。

⑦ コミュニケーションツールとしての話題を生むアイデアとして、少数意見ではありましたが2つ折りタイプの名刺の活用・ハングル文字の記載等、希望者がありました。くまモンの形そのままの名刺など、定形型ではない名刺も多くあります。今回はメンバーが一番利用しやすいと解答が多かった形状を選びましたが、名刺を出すだけで、会話が弾む、インパクトのある形状もコミュニケーションツールとしての名刺の役割を高めますので、今後の名刺作成の際にご検討下さい。

Ⅲ. 事業名 【 公益法人制度改革に関する事務 】

1. 事業目的

(対内)

公益社団法人格取得の為に、社団法人天草本渡青年会議所の会の運営及び会計基準の確立を行う。

2. 実施日時・場所

実施日時 【5月度例会企画 公益社団法人格取得について】

平成23年5月16日 20時5分～20時38分

【7月度通常総会 公益法人制度改革に関する件】

平成23年7月22日 20時15分～20時20分

【県政情報文書課との打ち合わせ】

平成23年10月20日 15時00分～16時40分

【税理士との打ち合わせ】

平成23年10月26日 10時10分～11時20分

実施場所 5月度例会 【株式会社肥後銀行 天草支店 3階会議室】

8月度通常総会会場 【株式会社肥後銀行 天草支店 3階会議室】

県政情報文書課と打ち合わせ 【熊本県庁2階県政情報文書課内】

税理士との打ち合わせ 【JC会館】

3. 参加人員

5月度例会時

(内部) 理事・役員	22名
メンバー	20名
合 計	42名

7月度通常総会時

(内部) 理事・役員	23名
メンバー	15名
合 計	38名

県政情報文書課との打ち合わせ

(外部) 県政情報文書課職員	2名
(内部) 理事・役員	3名
合 計	5名

税理士との打ち合わせ

(外部) 税理士	1名
(内部) 理事・役員	5名
合 計	6名

4. 事業内容

(1)公益社団法人格の取得申請に向けて、必要事項の準備・作成を行う。総会後には次年度への引継ぎが出来るように作成を目指す。

5. 成 果

(対内的)

- ①公益社団法人格取得について、5月度例会企画で発信することで、将来にむけた組織創りに向けての必要事項をメンバーに周知することができた。
- ②定款や規定に関して、他LOMの定款と規定や県政情報文書課のモデル定款と比較を行い、理事会を通じて様々な意見をいただくことで、一部ではあるが問題点が分かり、それに対しての変更案を作成することができた。
- ③財務シュミレーションについて、税理士さんに指導をいただくことで、会計上の問題点が確認でき将来に向けた事業構築についての方向性を確認することが出来た。
- ④7月度通常総会において、将来的には公益社団法人格取得を目指す、移行期限時においては一般社団法人格を取得する総会決議を取ることができた。
- ⑤一般社団法人格取得に向けた次年度以降の詳細なスケジュールを提案することができた。

6. 引 継 事 項

- ①一般社団法人への移行スケジュールについて、平成25年の1月に移行しなければ、解散の危険性も生じますので、移行スケジュールに沿って準備を進めてください。
- ②今年作成した定款案を元に定期的に県政情報文書課との打ち合わせを行ってください。
- ③移行準備を、スムーズに行うために特別委員会等の設置を検討してください。
- ④諸規定について、新定款案が固まり次第現状の問題点も含め、今年度の理事会等で協議した資料も参考に検討してください。
- ⑤諸規定に関して根本的に見直すのであれば全メンバーから意見集約できる形を検討してください。
- ⑥平成25年1月の移行する為には、平成24年6月に申請が必要となりますので、早めの役員選任を検討ください。
- ⑦会計に関しては、これまでよりも早めの予算立てを行うことを検討してください。また、会計フォームについても新基準に向けての検討も行ってください。

IV. 事 業 名 【 会 員 拡 大 推 進 】

1. 事 業 目 的

天草の明るい豊かな社会の実現のために、会員拡大を行う。創立50周年時には会員数100名を目指す。

2. 参 加 人 員

(内部) 理事・役員	3名
メンバー	2名
合 計	5名

3. 事 業 内 容

宝島づくり委員会の会員拡大の目標である20名を目指し、執行部・事務局としてメンバー全員で4名の拡大を目指す。

4. 成 果

執行部・事務局の会員拡大4名の目標に対して、入会者数0名

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	10月1日	J C会館	年間事業計画について 予定者セミナーについて	5	0	100%
2	10月8日	J C会館	年間事業計画について 予定者セミナーについて 機関誌あしなみの発行について 名刺の構想について	4	1	60%
3	10月24日	J C会館	年間事業計画について 機関誌あしなみの発行について 名刺の構想について	3	2	60%
4	11月22日	J C会館	機関誌あしなみの発行について 名刺の構想について 2011年度収支予算書の件について 公益社団法人格取得について	3	2	60%
5	12月13日	J C会館	機関誌あしなみの発行について 名刺の構想について 2012年度収支予算書の件について 公益社団法人格取得について	3	2	60%
6	2月18日	J C会館	機関誌あしなみの発行について 名刺の構想について 公益社団法人格取得について	2	3	40%
7	3月2日	J C会館	機関誌あしなみ167号の発行について 名刺の構想について 公益社団法人格取得について	2	3	40%
8	3月21日	J C会館	機関誌あしなみ167号の発行について 名刺の構想について 公益社団法人格取得について	2	3	40%
9	4月12日	J C会館	機関誌あしなみ167号の発行について 公益社団法人格取得スケジュールについて 「名刺の構想」におけるの4月度例会時の 発信・アンケート準備	3	2	60%
10	5月11日	J C会館	公益社団法人格取得に向けての5月度例会 企画の準備	3	2	60%
11	6月1日	J C会館	名刺の構想について	2	3	40%
12	7月28日	J C会館	機関誌あしなみ168号の発行について 定款変更について	2	3	40%
13	8月18日	J C会館	機関誌あしなみ168号の発行について 「名刺の構想」におけるの8月度例会時の 発信・アンケート準備 総会の出欠について 総会時の定款変更についての準備	3	2	60%
14	8月30日	J C会館	機関誌あしなみ168号の発行について 「名刺の構想」におけるの9月度例会時の 発信・アンケートの集計 総会時の議事録・変更事項について 定款変更について	3	2	60%
15	9月29日	J C会館	機関誌あしなみ168号の発行について 名刺のレイアウト案の検討について 定款変更について	3	2	60%

16	10月5日	J C 会館	機関誌あしなみ168号の発行について 定款変更について	3	2	60%
17	11月5日	J C 会館	機関誌あしなみ168号の発行について 機関誌あしなみの事業報告書について 名刺の構想の事業報告書について	3	2	60%

事務局長所見

2010年秋に、2011年度の事務局長と言う役職をいただき、それから事務局という組織が決まり理事会の設営やJC会館の管理・運営と予算・決算等に関する事務的な職務と、「機関誌あしなみの発行」、並びに「名刺の構想」という2つの事業に取り組みました。また、2013年度までの社団法人格制度の移行に伴う準備にも取り組み、一年間の事務局としての活動を行ってきました。本年は、例年の事務局としての職務の他に事業を2つ実施し、様々な活動の中での「学び」と「気づき」を経験させていただきました。さらには執行部として、専務理事の補佐役として、今年の方針を理解することで、各委員会との連携を図り、事業や活動がスムーズに行われるように、自分自身裏方役として活動して参りました。初めて、会の運営に関わり、分からないことだらけでありましたが、この一年で運営組織の大切さ、責任の重さを実感しました。全ての事業や活動には、色々な人達の協力があって成り立っています。この思いを会員一人ひとりが今以上に持つことで、素晴らしい活動ができ、地域に根づくことができるのではないのでしょうか。事務局グループの運営としましては、それぞれの意見を尊重できる雰囲気作りと、明確な役割分担における委員会の運営を目指しましたが、自分自身、事務局としての職務を全うすることに精一杯で、様々な活動や状況の中で調整を取ることができない場面もあり、長としてのリーダーシップが足りないと感じたこともありました。しかしながら、担当の専務理事、次長並びに事務局メンバーの支えがあって一年間を過ごさせていただいたことは非常に感謝しています。「機関誌あしなみの発行」と「名刺の構想」の2つの事業については幾つかの引継ぎはありましたが、報告という形で残すことで将来につながる事業として、少しは次年度以降の活動に繋げる事が出来たと思います。想いを伝えるのは難しいことではありますが、しかし、想いを伝え、繋いでいかなければ地域の発展には貢献ができませんと考えます。一年間を通して忙しくはありましたが、たくさんの方々の協力と会員の暖かさに支えられた一年間となりました。貴重な経験をさせていただき、暖かい協力をいただき感謝しています。ありがとうございました。

担当専務理事所見

本年度の事務局においては、例年の事務局としての職務だけに留まらず、機関誌あしなみの発行と公益的な新しい名刺の構想、さらには法人制度改革に伴う法人格移行の準備等、多岐に渡る職務数となり、大変多忙を極められた一年間だったのではないかと思います。

特に法人格移行の準備においては、会全体のこの案件に関する意識の低さも重なり、事務局としてもどう進めていけばいいのか迷われた時期もありました。結果としては移行スケジュール自体を見直すこととはなりましたが、2013年度1月移行に向けての準備と会として今後どの様な姿勢で取り組んでいかなければならないかということあらためて明確にして頂いたことで、次年度にスムーズにバトンタッチ出来るのではないかと思います。

また、表向きは目立たない職務ではありましたが、各委員会との連絡調整及び連携推進については、事務局が先頭に立って積極的にこの職務を全うして頂いたことにより、2011年度のスムーズな会の運営に繋がった大きな要因のひとつであったと感じております。

本年の事務局構成メンバーは若いメンバーで構成されておりましたが、当会議所の将来を担う皆さん方が携われたことが大変意義があり、今後さらに大きく飛躍する為の基礎を築く一年とすることが出来たのではないかと思います。

この一年間、一つひとつの職務に常に前向きに取り組んでこられた姿勢と多くの経験を、将来を担う次の世代に繋げていくことを願い、所見とさせていただきます。